

令和7年度介護のしごと魅力発信等事業(情報発信事業)  
-介護職発信事業-

KAIGO LEADERS .  
SCHOO L

株式会社Blanket

# 目次

本報告書は、令和7年度介護のしごと魅力発信等事業（情報発信事業）—介護職発信事業—の実施結果を以下の通り報告いたします。

## 1. 本事業について

エグゼクティブサマリー	3
本事業の目的	4
介護の仕事の魅力発信の考え方	5
本事業における重要ポイント	6
KAIGO LEADERS SCHOOL 全体像・概要	7
スクールの特徴・スケジュール	9

## 2. プログラムと受講生フォロー

講座① SNS講座	12
講座② ライティング講座	22
講座③ 場づくり講座	31

## 3. 受講生の参加・成果物

参加状況・アーカイブ視聴	45
各講座の成果物一覧	47
発信の到達/KPI/5アウトカム	54

## 4. 受講生の変容

各講座アンケート・自由記述	58
Before/After 個人ペア比較	64
地域に生まれた変化（場づくり）	65
外部評価事例	68

## 5. 広報について

募集説明会・業界団体連携・事業間連携	70
楽天連携広告・メディア掲載・PR	74

## 6. KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025

AWARD 開催概要・受賞作品	78
-----------------	----

## 7. 企画委員会

委員紹介・実施日程・主な助言	82
----------------	----

## 8. 自己評価・総括

成果と課題／総括	84
----------	----

## エグゼクティブサマリー

介護職自身が「発信者」として主体的に立ち上がる土壌を整備し、実践コース139名、アーカイブ視聴登録336名、計475名の介護職に学習機会を提供しました。受講生のうち93名が最終成果物を制作・公開し、投票ページや楽天グループ株式会社による広告※等を通じて複数チャンネルで発信を行い、一般層を含む多くのリーチを創出しました。

講座効果については、介護の仕事に関する発信を行う事への心理的ハードルの低下、行動変容、職業への誇り向上、知識・スキル習得の4指標すべてで目標を達成または上回る結果となりました。母数指標も概ね計画通りに推移し、介護職の発信力向上と実際の情報発信創出の両面において、本事業の有効性を確認しました。

加えて、現場発のリアルなコンテンツが可視化されたことで、介護の仕事の理解促進やイメージ改善に寄与する基盤を構築しました。

※ 楽天グループ株式会社は「介護のしごと魅力発信等事業 情報発信事業（WEBを活用した広報事業）」の採択事業者である。

① 学びの機会を提供

475

名

実践139名／アーカイブ336名

② 介護職の発信

93

点

動画31／記事38／場づくり24

③ 到達したユーザー

40.8万

ユニークUU

WEB投票UU・楽天連携広告等

④ 提案書KPI

概ね達成

主要KPI

16指標中 達成6・概ね達成5

## 本事業の目的

2024年に公表された厚生労働省の「第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」によると、2022年度において介護職員は約215万人。2040年度には約272万人の介護職員が必要になることから約57万人（2022年度比）の増員が必要という試算がされており、人材確保は喫緊の課題です。一方で、介護労働安定センターが昨年7月に発表した調査（令和6年度「介護労働実態調査」より）では介護職員等の2024年度の離職率は12.4%と、調査開始以降で最も低い水準となり明るい兆しも見えています。

同調査では「採用活動の実施状況、効果があったもの」の中で「事業所ホームページで自事業所のアピールポイントを求職者へ発信」しているが37.2%、「SNSを活用して自事業所のアピールポイントを求職者へ発信」しているが14.8%にとどまっています。（複数回答可/回答8,978事業所）この数字から、介護現場には「まだ世の中に届いていない魅力」を発信できる大きな伸びしろが存在しています。

こうした背景を受け、介護職員が自らライティング、SNS、場づくりのスキルを習得する「KAIGO LEADERS SCHOOL」を開校しました。本事業では、介護職自身による情報発信を通じて、一般層への認知拡大と関心喚起を図ることを目的としました。

## 本事業における介護の仕事の魅力発信の考え方



**マスメディアでの発信**  
一度に多くの人へリーチすることができるが、  
発信者と受け手に距離がある



**個人の発信**  
信頼している人からの発信は  
共感や行動に繋がりがやすい  
ゆっくりだけど確実に広がる

「介護職発信」では、**介護職が自らの周囲に情報を着実に届けていくことで**  
介護の仕事の魅力が伝わることを目指しました。

## 本事業における重要ポイント

情報発信事業（介護職発信事業）（公募要領より）

多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持つとともに、その仕事の魅力を感じてもらえるよう、介護職など自らが主体となり、自らの声で介護の仕事の魅力・やりがい・誇りを発信するコンテンツの企画・制作等を行い、発信力のある①(全国へ向けた情報発信事業)や②(WEBを活用した広報事業)の事業者と連携し、広く国民に向けて広報を行う事業。

### 介護職並びに介護事業者が魅力発信し、成果につなげるための重要ポイント

#### ① 自己認識と誇りの再発見・意欲醸成

主体的に発信するにはまず、自分たちの「強み」「魅力」「価値」を自覚し、「発信したい」というマインドセットが重要です。介護職は日々忙しい現場に追われているので、「自分たちの仕事の価値」を言語化できていない人が多い現状があります。自分達の仕事の価値を再認識し、意欲醸成を目指しました。

#### ② わかりやすく・魅力的に伝える表現技術の習得

介護の仕事の魅力を感じていても、それを伝えられるスキルがないと魅力が伝わりません。介護の現場を知らない人に対してさまざまな角度から魅力を伝えるスキルを専門家から学べる環境を作りました。

#### ③ 小さな成功体験と継続力

発信は一度だけでは人材確保の成果に繋がらず、続けることが重要です。そのためにプログラムの中で小さな成功体験の積み重ね、発信そのものの楽しさを知っていくこと、そして切磋琢磨できる受講生コミュニティを構築しました。

# KAIGO LEADERS SCHOOL全体像

介護・福祉の領域で活躍するプレイヤーが仲間と共に学び・成長することを目的としたスクールです。単なるスキル習得にとどまらず、受講者が自施設や地域で“小さな成功体験”を積み重ね、その成功を語り合いながら継続的な行動変容を促す“コミュニティ主導型”の仕組みを採用しています。自分の言葉で介護の魅力を発信できる介護職員を一人でも多く増やすことで、その魅力を社会に届けます。

## ① 2種類の受講スタイル

- ・ **実践コース**：座学だけでなく、課題に取り組み、振り返りと実践を繰り返すコース
- ・ **アーカイブコース**：講義動画を好きなタイミングで視聴するコース（※課題提出や振り返りなどはありません）

## ② 3つのコース

スクールでは3つのコースを用意しました。各コースの定員は50名。

コース名	内容
SNS講座	介護の仕事の魅力をSNSとショート動画で届けていくための実践型講座です。言葉にできなかった想いや価値を可視化し、共感と呼ぶストーリーとして発信していきます。
ライティング講座	介護の仕事の魅力を「文章」で伝える実践型講座です。届けたい想いを持つ人が、相手に伝わり心に響く文章を書くスキルを身につけます。
場づくり講座	介護の仕事の魅力を「場づくり」を通じて地域の人々に届ける実践型講座です。

## KAIGO LEADERS SCHOOL概要

期間	2025年10月～2026年2月
受講料	無料
コース	SNS講座 ライティング講座 場づくり講座
募集定員	各コース50名（全150名）
受講人数	実践コース139名・アーカイブコース336名
KAIGO LEADERS SCHOOL HP	<a href="https://heisei-kaigo-leaders.com/school/">https://heisei-kaigo-leaders.com/school/</a>

KAIGO LEADERS .  
SCH●●L

KAIGO LEADERS SCHOOLロゴ



KAIGO LEADERS SCHOOLキービジュアル

## スクールの特徴

1

### インプットのみならずアウトプットありきのプログラム設計

プログラムの期間中に、すべての講義で「課題」を設定します。受講生にはプログラム参加中にどんどん実践を積んでいただき、受講中に実践・成長できる環境をつくりました。

2

### チューターによるフィードバックの機会

各講義ごとに、プロのライター、動画編集者やコミュニティデザイナーを配置し、受講生のサポートを行います。課題をプロに直接フィードバック・ブラッシュアップしてもらう機会をつくり、より魅力が伝わるアウトプットへ磨きました。

3

### 連携等によるアウトプット機会の創出

受講生の集大成となるKAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025では講師やゲスト、外部機関との連携により優れた作品を表彰する機会を作りました。本機会により、より多くの人に情報を届けました。

## スクール全体像

2025年  
8月8日

告知開始

募集説明会の開催 @オンライン

8～9月

スクールの受講生募集のための集客がメインの目的ですが、発信することの重要性の理解や自身の仕事への誇りを持つ機会、発信してみたいという意欲醸成を意識した企画を実施します。

10月5日

スクール開校

全体キックオフ講座 東京・オンライン開催

SNS  
編集講座

ライティング  
講座

場づくり  
講座

2026年  
2月22日

KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025開催  
東京・オンライン開催

4月

事業報告・発信

# プログラムと受講生フォロー

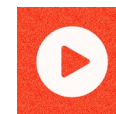


## 講座① SNS講座

介護の仕事の魅力を、「SNS・ショート動画」で届けていくための実践型講座です。言葉にできなかった想いや価値を可視化し、共感と呼ぶストーリーとして発信していきます。Instagramでのアカウント運用や、昨今SNS発信で欠かせない「ショート動画」を中心に、企画・撮影・編集・投稿までを5回の講座で実践。発信の本質にふれ、「伝える楽しさ」と「届く喜び」を体感しながら、自分らしく無理なく続けられる発信スタイルを育てます。介護の現場の魅力が届けたい相手に“ちゃんと届く”発信力を身につけられる、仲間とともに学ぶ実践型プログラムです。

### プログラム内容

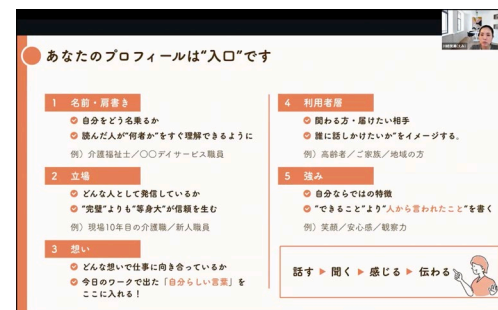
	テーマ	講師
第1回	“伝えたい想い”を言語化しよう	川崎笑美 KEY Design Office 代表
第2回	魅力が伝わるアカウントを設計してみよう	松本 佳奈 SNSコンサルタント/コンテンツマーケター
第3回	伝わる動画の作り方	佐々木 緋音 動画クリエイター/ディレクター
第4回	関心のない人が振り向く企画の作り方	廣瀬 智之・トム Tomoshi Bito株式会社 代表取締役
第5回	私なりの続け方を設計してみよう！	松本 佳奈 SNSコンサルタント/コンテンツマーケター



## プログラム内容

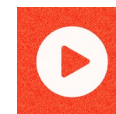
### テーマ：“伝えたい想い”を言語化しよう

- ・ 介護現場での印象的な体験や感情を振り返り、自身が大切にしている価値観や発信で伝えたい想いを言語化する手法の習得
- ・ 比喩表現や三行メッセージの作成ワークを通じて、介護の魅力や自身の経験を自分の言葉で分かりやすく伝えるための表現手法の習得
- ・ 発信対象（ターゲット）や伝えたい内容を整理した上で、SNSプロフィールや発信のトーン設計を行い、継続的に情報発信を行うための基礎の習得



## アンケート

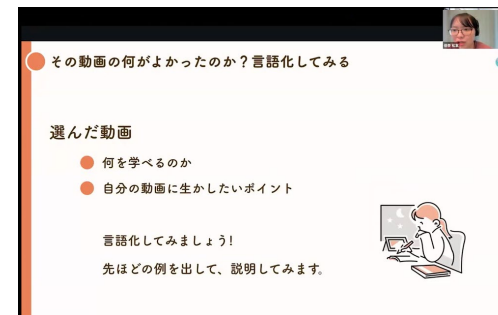
- ・ 講師の川崎さんからのフィードバックを直接いただいたこと、また文字に起こすことの難しさ、グループワークでの皆さんの気づきを共有していただいたこと。自分で気づいていない自分であるんだなと思いました。
- ・ 誰に伝えたいのかを明確にすることの重要性が分かりました。日々当たり前に見えている部分を切り取り感じたことを届けていきたいと思います。法人のアカウントなのでみんなで共有し統一感のある投稿にしていきます。
- ・ SNS発信は「伝えるより」「にじむ」発信を目指す。という言葉が印象に残りました。
- ・ 「福祉」を発信をしていく上で、自分の想いをどのように言語化して、それを誰にどのように届けたいのかを明確にすることの大切さを学びました。
- ・ どの作業もとても時間がかかり、みなさんがどんどん発表していくスピードについていけませんでした。
- ・ 想像して考えて、どう相手に伝えるかを悩む事は労力がいましたが、あっという間の時間で楽しくてワクワクして2回目が楽しみになりました。課題も前向きに頑張れそうです。ありがとうございました。
- ・ 皆さんがチャットを活発に活用されていて、とてもいい雰囲気講座でした。



## プログラム内容

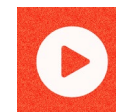
### テーマ：魅力が伝わるアカウントを設計してみよう

- ・ ショート動画制作における基本プロセスの理解（ターゲット設定・ニーズ起点での企画設計・伸長事例の分析および型の活用によるコンテンツ設計の重要性）
- ・ 参考動画の分解と言語化を通じた構成要素の抽出（冒頭設計・テンポ・字幕表現・共感要素等の細分化による再現可能な設計力の習得）
- ・ 構成シートを用いた短尺動画設計の実践（ワンメッセージ設計・15～30秒尺・冒頭数秒の訴求強化・シーン分割による具体的な動画構成案の作成）



## アンケート

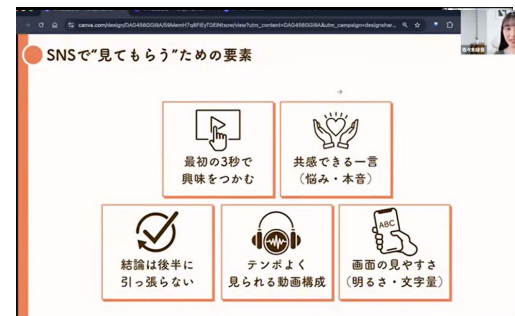
- ・ 普段何気に見ている動画ですが、画角やシーンを細かく変え、飽きないような工夫をしている事に驚きました。他の動画の良さを言語化する事で、自分の動画に活かせる部分も多くなるんだなぁと学びました。
- ・ ほとんど使ったことがないInstagramでの動画発信ということで、緊張する。ハードルが高く感じてしまう自分もいますが、運営の方の温かいスタンスや、先生が毎回親身になって答えてくださること、参加されている皆様が励ましてくださることに背中を押してもらって、がんばります。
- ・ ショート動画を構成の視点から見ること、自分の作りたい動画の構成を考えること。思いのほか楽しく、他の方々のアイディアと添削がまた勉強になりました。
- ・ ここはマネしたくないところが、あなたらしさ、ということが心に残りました。マネをすると自分らしさが消えると思ってたので、目からうろこでした。
- ・ 動画作成はハードルが高いと思っていましたが、構成のポイントやコマ割りなどのポイントを知れて、もしかしたら自分でも作れるのではないかと少し展望できました。



## プログラム内容

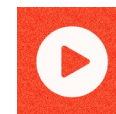
### テーマ：伝わる動画の作り方

- ・ ショート動画における視聴維持を目的とした構成設計の重要性（冒頭での結論提示、興味喚起のフック設計、テンポの良い画面転換による離脱防止）
- ・ ターゲット視点に基づく伝達設計の必要性（専門用語を避けた分かりやすい言語選択、共感を生む導入、短文字幕や現場の空気感を活用した理解促進）
- ・ 動画制作プロセスの体系的理解と実践（企画・構成等の工程理解およびAIを活用した制作手法）



## アンケート

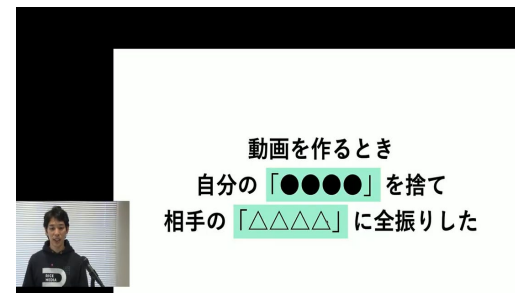
- ・ どうしたらテロップでその場の温度感が視聴者に伝わるのか、**少ない言葉で伝わる言葉選びと編集の重要性**を学びました。
- ・ **完璧じゃなくていいと背中を押していただけたので、まずはアップしてみようと思います。**
- ・ **編集ソフト自体を触るのが初めてだったのですが、難しいながらもとても楽しかったです。編集に対する抵抗感が今回で大分薄れたような気がします。**
- ・ **動画作りをこんなに丁寧に教えてもらえるとは思っておらず感激**です。やってみたら面白くて、前日まで素材が集まらず、何をどうしたらいいかもわからず、モヤモヤしていましたが、前に進めそうです。
- ・ ショート動画は何気なく流し見していましたが、今度から参考にするために**見る視点が変わりました。**
- ・ 動画は初めてだったのでとても勉強になりました。テンプレートがあるので**案外簡単に作成できるものだと知りました。**
- ・ 初心者ながら、**講師の方が優しくて焦らず受講することができました。**ありがとうございました。



## プログラム内容

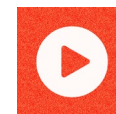
### テーマ：関心のない人が振り向く企画のつくり方

- ・ ショート動画における効果的な構成設計の理解（冒頭での興味喚起、結論先出し、短時間での情報伝達を意識した構成設計）
- ・ 視聴者視点に基づく伝達手法の習得（共感を生む導入、平易な言葉選び、短文テロップによる分かりやすい情報提示）
- ・ 動画制作プロセスの理解と実践（企画・構成・台本・撮影・編集の一連の工程および試行改善の重要性）



## アンケート

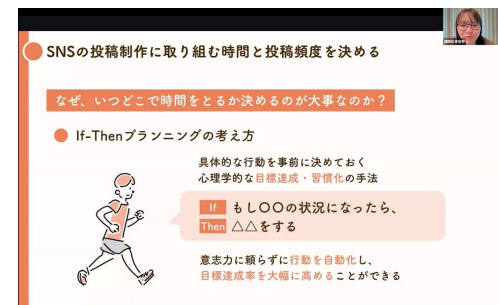
- ・ 動画をつくるとき自分の「伝えたい」を捨て相手の「知りたい」に全振りというところがとても刺さりました。どうしても伝えたいことをアップしがちのため、意識していこうと思います。
- ・ グループワークにてそれぞれの立場で作成される動画の種類や目線が違う事に気付きました。
- ・ 今日のワークで新しい企画を思いついたのでとても有意義な時間になりました。大衆の関心がどんなところにあるのか、感情導線を意識して動画を作りたいと思いました。
- ・ 自分の伝えたいをいったん丸めてポイ！最初は難しいなと感じましたが、ワークショップで、介護へのインサイト・大衆の関心・自分の強みというように細分化していくことでなるほどなと腑に落ちました。
- ・ 現状を分析して施策を打つ。まずやってみていろいろ間違えてみようと思いました。そのきっかけになるお話をたくさん伺えたと思いました。課題からやってみます。
- ・ 動画をブラッシュアップする際に、相手の立場にどれだけ立てるか、冒頭×構成が大切である事、感情がどう動いていくかという点に着目しながら進めていけば良いのかなと感じることができました。



## プログラム内容

### テーマ：私なりの続け方を設計してみよう！

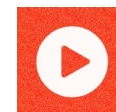
- ・ 視聴者の「知りたい」を起点とした動画企画設計の重要性の理解（大衆インサイトの把握および自社の強みとの接点創出）
- ・ 感情導線を踏まえた構成設計の習得（冒頭設計・興味喚起・継続視聴を促すストーリー構築の重要性）
- ・ 企画立案における思考プロセスの習得（要素の分解と言語化、他者との意見交換を通じた発想の拡張）



## アンケート

- ・ 完璧でなくてもいいから投稿を続けていく事が大切だと思えました。その為の仕組みを作りたいと思います。
- ・ 意志力に頼ることなく、時間や頻度を決めることで続けられる。
- ・ 質問の時間を多くしてもらえてよかった。またほかの方がどんな風にスケジュールを考えているかを知れてよかった。
- ・ YouTube、インスタなどの投稿方法など勉強になりました。障壁になりそうなことは、解決策を自分で考えてグループワークで話し合えたことが内容の整理になりよかった。相手が頷いてくれる事で少し安心しました。時間がないなどで諦めてしまう自分を安易に想像できましたが、100%でなくても、とにかく投稿する、続けるが響きました。
- ・ 投稿の仕方に限らず、どうしたら相手に伝えることができるか、伝わるのか学んで考えることができたので良かったです。
- ・ 初めは、この講座に申し込んだ事すら後悔するくらい動画作成に苦戦しました。でも、講師の方々や事務局の方々のフォローのお陰で最終日までこぎつけました。何か不得意に挑戦してみる事の大切さも実感できました。
- ・ こんなに優しく丁寧に教えてもらい私でもできるかもと思えました。ありがとうございました。

## 講座① SNS講座 課題



### 課題

介護の仕事の魅力や価値が何らかの形で伝わる縦型ショート動画を1本作成  
※施設紹介や採用PRにならないもの

### 課題に取り組むスケジュール

11月27日(木) SNS講座 DAY3 ショート動画課題提示

12月2日(火)～12月12日(木) 1回目フィードバック会実施

12月12日(木) **【全員提出】** 課題ショート動画提出〆切  
※フィードバック会出れなかった受講生も必ず提出

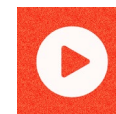
12月12日(木)～1月8日(木) 課題ショート動画ブラッシュアップ 期間

1月9日(金)～1月16日(金) 2回目フィードバック会実施

1月16日(金) **【全員提出】** 課題ショート動画提出〆切  
※フィードバック会出れなかった受講生も必ず提出

1月23日(金) **【全員提出】** (最終版)課題ショート動画提出〆切

# 講座① SNS講座 課題



## チェックリストの共有

受講生には、ショート動画課題の作成前にチェックリストを共有し、内容に沿って提出するよう依頼しました

### ●KAIGO LEADERS SCHOOL SNS講座課題

#### ショート動画作成時チェックリスト

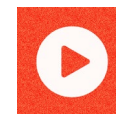
チェック		
<input type="checkbox"/>	著作権・利用規約の確認	音楽・画像・フォント・テンプレートなどは、著作権や利用規約を守って利用しているか。 ◎使用するアプリケーション・音源の所得先の参考 ●全体 <a href="https://www.canva.com/ja_jp/">https://www.canva.com/ja_jp/</a> ●サウンドエフェクト（効果音） <a href="https://soundeffect-lab.info/">https://soundeffect-lab.info/</a> ●BGM(バックグラウンドミュージック) ※映像の背景に流し、メインの音や物を演出する音楽を指します。 <a href="https://dova-s.jp/">https://dova-s.jp/</a> （作曲家の方が別途利用条件を設けている場合あり） <a href="https://bgmer.net/">https://bgmer.net/</a> <a href="https://amachamusic.chagasi.com/index.html">https://amachamusic.chagasi.com/index.html</a> ●画像・動画 <a href="https://pixabay.com/ja/">https://pixabay.com/ja/</a> <a href="https://www.pexels.com/ja-jp/">https://www.pexels.com/ja-jp/</a> <a href="https://video-ac.com/">https://video-ac.com/</a>
<input type="checkbox"/>	出演者の同意取得	利用者・職員・家族などが映っている場合、本人または必要に応じ代理人から同意を得ているか。

<input type="checkbox"/>	個人情報・施設情報の映り込み	掲示物や名札、住所、電話番号などが映っていないか。
<input type="checkbox"/>	安全・尊厳の確保	撮影時に無理をさせていないか、利用者の尊厳を損なわない表現か。
<input type="checkbox"/>	誤解を与えない編集	カットや字幕で意図と異なる印象を与えていないか。
<input type="checkbox"/>	BGMや効果音の適切性	場にふさわしい雰囲気か、差別的・不快に受け止められる可能性がないか。
<input type="checkbox"/>	表現のトーン	誇張しすぎたり誤解を招く表現は避け、事実に基づいて伝える
<input type="checkbox"/>	介護の魅力が伝わるか？	視聴者に「介護の魅力」が伝わるか（事業所・会社の宣伝の色彩が強い動画になっていないか）
<input type="checkbox"/>	公開後の対応体制	批判的なコメントやトラブルがあった場合、一人で抱え込まず運営に相談できる準備があるか。
<input type="checkbox"/>	不適切ケアになっていないか	不適切ケアとして捉えられる介護や場面が映っていないか。
<input type="checkbox"/>	事実確認	字幕の数字・日付・制度名・人名などに誤りがないか。
<input type="checkbox"/>	音声、環境音への配慮	音声が聞き取りづらい、周りの環境音が大きすぎるなど、音への配慮はできているか。
<input type="checkbox"/>	用語の正しい使用	介護職や制度に関する用語の使い方に誤りがないか。略称や俗称によって、正確性や尊厳を欠く表現になっていないか。 （例：介護士ではなく「介護職」、デイサービスや小規模多機能型居宅介護は「施設」ではなく「事業所」、ケアマネージャーではなく「ケアマネジャー」、認知症を「ニンチ」と略していないかなど）

## 課題の事務局チェック

事務局として、チューターのフィードバックとは別に、チェックリストに沿った内容かを確認するとともに、介護の仕事の魅力や価値がより伝わる工夫についてフィードバックを行いました。

# 講座① SNS講座 チューターによる受講生フォロー



## SNS講座チューター

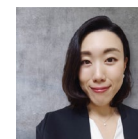
1グループに1名のチューターを配置し、全体で5つのグループを編成しました。オンライン上では、LINEのオープンチャットをグループごとに作成しました。受講生の課題に対しては、オンライン（Zoom）で2回のフィードバック会を実施しました。当日参加できない受講生に対しては、テキストや動画にて後日フィードバックを行いました。



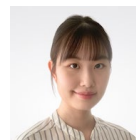
松本 佳奈  
SNSコンサルタント  
コンテンツマーケター



蛇川 典恵  
動画クリエイター  
SNS運用



ケトル 萌  
SNSマーケター



佐々木 緋音  
動画クリエイター  
ディレクター



渡邊 友梨  
映像クリエイター

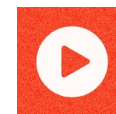


川崎 笑美  
KEY Design  
Office代表  
※川崎は全体サポートとして  
各グループの状況把握

## フィードバック会実施日程

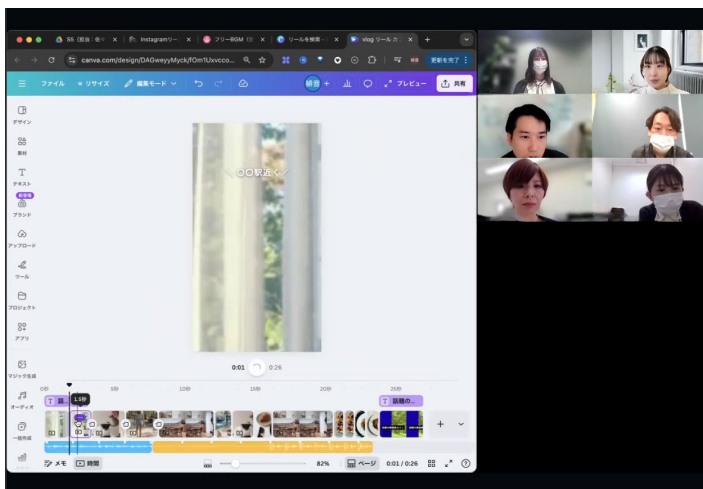
	松本グループ	蛇川グループ	ケトルグループ	渡邊グループ	佐々木グループ
1回目	12月2日(火) 10:00~11:30	12月5日(金) 13:30~15:00	2月7日(日) 20:00~21:30	12月11日(木) 12:30~14:00	12月12日(金) 11:00~12:30
2回目	1月16日(金) 10:00~11:30	1月9日(金) 13:00~14:30	1月11日(日) 20:00~21:30	1月15日(木) 12:30~14:00	1月13日(火) 11:00~12:30

# 講座① SNS講座 チューターによる受講生フォロー



## フィードバック会の様子

チューターは、提出された動画に対してフィードバックを行いました。受講生のレベルに応じて、動画制作が初めての受講生から経験のある受講生まで、それぞれに合わせたアドバイスを実施しました。また、受講生からの質問に対しても丁寧に対応しました。



## 後日フィードバック

オンラインでのフィードバック会にリアルタイムで参加できなかった受講生に対しては、テキストやドキュメント、録画動画などを用い、チューターごとに方法を工夫しながら、提出物に対するフィードバックを実施しました。

S5 (担当: 佐々木...\_KLS SNS 講座)

佐藤美子さんフィードバック

お名前変更ありがとうございます！  
動画拝見いたしました！  
皆様の豊かな表情や現地の雰囲気<sup>（笑）</sup>が伝わる素敵な動画になっていますね  
トランジション（画像の切り替わり）も1つ1つ丁寧にいらていただいているので、飽きずに最後までご覧いただけるのではと思っています！  
私からは1点だけ、もし画像の位置を少し調整できると良さそうですが、いかがでしょうか...？  
00:06 お顔が文字で隠れないようにできるとより良いかもしれません！

推奨×ほっこりエピソードで素敵なシーンの切り取りでした！  
前回よりもお仕事の魅力が伝わる動画に仕上がっていました！  
もったいない箇所についてフィードバックさせていただきます。

Instagram リールのセーフゾーン

少し下にレイアウトしましょう

テキストが画面いっぱいになっていて、SNSで投稿する時に見切れる可能性があるのと、余白があった方が読みやすいので、左右の余白を多めにしてください

文字を少し小さくしたり、大きさを少し細くしたりして、バランスを整えるといでしょう

Instagram リール作成機能から動画のダウンロード保存方法

リールの下書き保存をしておく

リールの下書きのところからダウンロードしたい動画をタップ

「編集」をタップ

上向き三角をタップ

選べるツールの一番右にあるダウンロードボタンをタップ



## 講座② ライティング講座

介護の仕事の魅力を「文章」にして届けていくための実践型講座です。

介護に対する想いや現場で心を動かされたエピソード、自分が働く組織の特徴など、「なんとなく」感じていたことをどうすれば言葉にできるのか。

読み手に届く文章の組み立て方、伝わる表現の工夫などを、仲間とともに学んでいきます。ゲストには、「福祉を届ける”ことに縁のあるプロのライター・編集者をお招きし、書きはじめる前の準備や情報発信における倫理、「伝えたい」が「伝わる」ための視点にも触れていきます。

自分の言葉で介護の仕事の魅力を語れるようになる、そんな実践力が身につく講座です。

### プログラム内容

	テーマ	講師
第1回	自分が伝えたいことってなんだろう？	小松 理虔 ヘキレキ舎 代表
第2回	どうすれば伝えたいことが「伝わる」？	中田 一会 マガジンハウス〈こここ〉編集長
第3回	いい文章ってなんだろう？	あかし ゆか 編集者・ライター・本屋店主
第4回	原稿を磨いて、深めていこう	あかし ゆか 編集者・ライター・本屋店主
第5回	振り返り・継続に向けて	垣花つや子 編集者

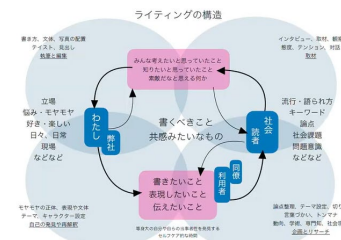
## 講座②ライティング講座 第1回 日時：10月17日(金)13:00～16:00



### プログラム内容

#### テーマ：自分が伝えたいことってなんだろう？

- ライティングの本質的役割の理解（文章作成を通じた情報伝達にとどまらず、社会課題の解決やプロジェクトの価値向上に寄与する行為としての位置づけ）
- ライティングに内包される多様なプロセスの理解（企画立案、調査、対話・インタビュー、構成設計、表現選択、発信までを含む総合的な実践領域）
- 対話と傾聴を基盤とした表現姿勢の習得（相手の語りを受け止める関係性構築と、その内容を言語化し価値として届けるプロセスの重要性）



### アンケート

- 書けそうなことは誰にでもあり、まずは書いてみる。それが社会と接続することで誰かのケアにもなる。書きたいことよりもまずは近いものを積み上げる。
- ライティングは自分とあまり関わりがないことだと思っていましたが、カルテの記録や日々の記録もライティングだと教えていただき、普段からやっていることだとハッとさせられました。より身近に感じることができました。
- こう書いたら、伝えたら、話したら、相手はどう感じるかなと配慮することは、すでにケアの視点。これは、私がすでに持っている強みなんだと肯定できました。
- 自分の中のコンテンツを増やす。地域と関わり、人と関わる。関心を大いにもつ。とにかくやってみる、行動する事を大切にしていきたいと、今日の講義で学ぶ事が行えました。
- 観察する、解像度を上げる、目の当たりにしていることをメモする、地域を深堀る、などなど、「書く」ことのヒントをたくさんいただけたように思います。

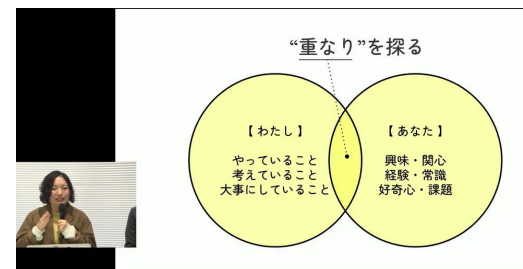
## 講座②ライティング講座 第2回 日時：11月7日(金)13:00～16:00



### プログラム内容

#### テーマ：どうすれば伝えたいことが「伝わる」？

- ・ ライティングの役割拡張に関する理解（文章作成にとどまらず、企画・調査・編集・発信までを含む総合的な実践領域としての認識）
- ・ 対話・観察を基盤とした表現プロセスの理解（インタビューや傾聴を通じた関係構築および言葉・構成の選択による価値の言語化）
- ・ 社会や組織への価値創出としてのライティングの意義理解（記録・発信を通じた課題解決やナラティブ形成への寄与）



### アンケート

- ・ 自分の当たり前で話すと相手に伝わらないことがある。というのはとてもハッとさせられました。
- ・ 「伝わるために考える」素材は、至るところに転がっているものだと感じました。
- ・ プロのライターの方は伝えるということにこんなにも熱量があるんだと驚かされました。伝わる（伝えたいことを伝える）を目指すための具体的な方法や切り口が学べて、コンプレックスと半分諦めていた伝えるという行為を、工夫をして少しでも前向きに捉えられるように実践を重ねていきたいと思います。
- ・ 発信をするときには必ず、自分よがりにならずに、伝わる3要素を考えてから始めたいと思いました。
- ・ ただ伝えるということではなく、伝える背景には目的とか読み手像があることが具体的にわかりました。
- ・ 自分の伝えたいことや、伝えたい対象について、分析することが大切だと思った。素人なので講座から学んだテクニカルな面を無理に真似するのではなく、「相手がどう感じるか」を考えていきたい。これは福祉職の自分ならできることだと信じて取り組んでみます。

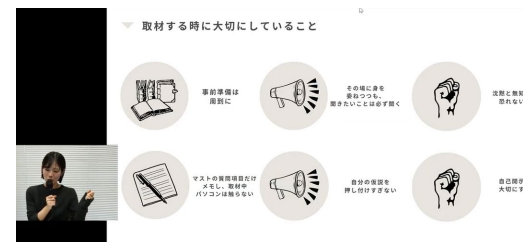
## 講座②ライティング講座 第3回 日時：11月20日(木)13:00～16:00



### プログラム内容

#### テーマ：いい文章ってなんだろう？

- ・ 「伝わらない」ことを前提とした伝達設計の理解（認識や前提のズレを踏まえ、意図的に情報を設計する必要性の理解）
- ・ 読み手との「重なり」を起点とした表現手法の習得（共通項の探索を通じて、受け手に届く言葉や切り口を構築する視点）
- ・ 具体事例に基づく伝達改善プロセスの理解（伝達失敗の要因分解を通じた、目的・対象・表現の再設計手法の把握）



### アンケート

- ・ インタビュー時の作法のようなものや、構成の作り方といった具体的な方法が知れてよかった。
- ・ 「あなたが書きたいのはどんなタイプのいい文章でしょうか？」や「誰に何を」のワークが良かったです。今後の執筆の参考になりました。
- ・ 文章を書くポイントをいくつか知ることができ、「誰に」「何を」伝えたいのかを意識して今後も文章作成に取り組みたいと思った。
- ・ 誰に、何を、が不明確のまま書き進めていて実際に自分でも「これの文は誰が何のために読んでくれるのだろうか」とネガティブになっていました。でもあかさんの『言語化できなかった思いを言語化してくれている文章』『自分はひとりじゃない』と思えた文章が『いい文章』ではないかというお話にすごく共感したし、私自身もそのような文章が好きなのでこの点を意識して頑張りたいなと思いました。
- ・ 「誰に」「何を」伝えるか？に加えて「どんな点を工夫して書くか？」という問いにはっとさせられました。今までは、誰に何を～は考えても、そのほかは感覚的に文章にしていたなと思います。もっと想像力を鍛えていこうと思いました。

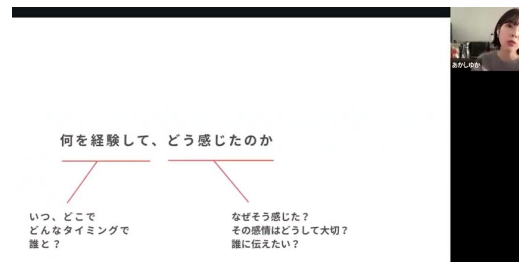
## 講座②ライティング講座 第4回 日時：12月10日(水)13:00～16:00



### プログラム内容

#### テーマ：原稿を磨いて、深めていこう

- 読み手起点での文章設計の深化（「誰に・何を・なぜ伝えるか」を起点とした構成整理と、目的から逆算した表現選択の重要性の理解）
- インタビュー内容の編集・再構築力の習得（発話の意図を汲み取り、情報の取捨選択と構造化により伝わる文章へ転換する技術の理解）
- 文章品質向上に向けた実践的視点の獲得（具体と抽象の往復、言語化精度の向上、読み手との認識の重なりを意識した推敲姿勢の定着）



### アンケート

- 「あなたが書きたいのはどんなタイプのいい文章でしょうか？」や「誰に何を」のワークがとても良かったです。今後の執筆の参考になりました。
- 実際の記事の構成をみながら解説していただいたのは貴重な学びでした。サビを固めて組んでいく、というのがとてもわかりやすかったです。
- 事前に質問を募集していただいたので、コツや悩みも聞いてもらえてすっきりしています。
- ライターを本業とされている方の、葛藤や過程を共有いただいたことで、不安もあっていいんだと思いました。抽象と具体の話も新しい学びになりました。
- 実際の構成・編集の過程を見せていただけたのが大変勉強になりました。
- 実例を元にした文章の分解や繋がり方が学びになりました。第2稿の作成に向けてのヒントを得られました。
- 上手く書こう！というより、純粹に自分が「介護や福祉が好きだなぁ」ということを、自分の温度で書いていければと思いました。

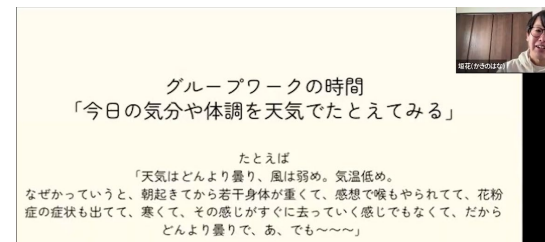
## 講座②ライティング講座 第5回 日時：1月22日(木)13:00～16:00



### プログラム内容

#### テーマ：振り返り・継続に向けて

- 講座全体の振り返りを通じた、受講者の自己理解の深化および、日常業務や経験を言語化する基礎的視点の習得
- 伝達力向上に向けた「目的・対象・立場」の整理手法の理解および、読み手を踏まえた表現設計の基礎の習得
- 振り返り・対話・記述の実践による学習定着の促進および、継続的なアウトプットに向けた行動設計の形成



### アンケート

- 今までの研修の振り返りができ、自分自身のインプット、アウトプットが明確になりました。
- 研修のポイントを振り返りできて、忘れかけたことも思い出すこともできてよかった。他の方の気づきも共有できてさらに視点が深まった。
- 半年後の自分へ目標を立てるワークが良い経験になりました。
- 個人で振り返りをするだけでなく、他の方からのインタビューを通して自分の課題に気がついたり、次に起こすアクションを考えられたのが嬉しかったです。
- 直接支援をしている専門職ではなくても言えることがあるということ。自分の仕事の自信にも繋がりました。
- 書くことや本を読むことを続けていきたいです。講座を受講できてよかったです。
- 改めて伝わる文章を書くことの面白さを認識できた。振り返り、フィードバック体制が丁寧な講座だと思った。
- 発信することそのものの学びを身につけられたことだけでなく、介護の業界を盛り上げたいという仲間がこんなにもいることに何よりも感動と勇気をもらいました。この場に立ち会えて幸せです。

## 講座②ライティング講座 課題



### 課題

課題テーマ：「介護のしごと」が教えてくれたこと  
エッセイor 受講生同士のインタビュー で提出

### 課題に取り組むスケジュール

～11月7日(金) インタビューチームは、取材実施

～11月20日(木) 初稿提出 〆切

～12月19日(金) 第二稿提出 〆切

～1月9日(金) フィードバック会実施  
W1 12/20 (土) 18:00～19:00  
W2 12/22 (月) 9:00～10:00  
W3 1/9 (金) 13:00～14:00  
W4 1/7 (水) 18:30～19:30  
W5 日程合わずテキストで実施  
W6 12/24 (水) 10:00～11:00  
W7 12/29 (月) 10:00～11:00  
W8 12/29 (月) 10:00～11:00  
W9 12/26 (金) 20:00～21:00

～1月12日(金) 完成版の原稿提出 〆切

～1月19日(月) インタビューイ等への確認 〆切

～1月30日(金) 運営・関係者確認 原稿完成

## 講座②ライティング講座 チューターによる受講生フォロー



### ライティング講座チューター

4~5名に対して1名のチューターを配置し、オンライン・LINEグループにて受講生の課題に対してフィードバックや相談会を実施しました。



田邊 なつほ  
株式会社声音  
ライター



谷部 文香  
ライター



林 春花  
ライター



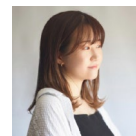
福井 尚子  
ライター・編集者



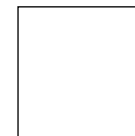
山中 散歩  
生き方編集者



ウィルソン麻菜  
ライター



内田ももみ  
ライター・編集者



栗村 千愛  
ライター・編集者

### 実際のフィードバックのやりとり

質問ありがとうございます。  
読ませていただき、いわゆるインタビュー記事と言われるものよりはエッセイに近い感じを受けました。でも、介護の魅力を伝えるという記事なので、それは問題ないです！  
こういう雰囲気の記事にするとき気をつけていただきたいのは、重複になるかもしれませんが相手が言っていることを操作していないか？ということ。自分に引きつけて考えすぎてしまって、相手の本意と違う文脈で受け取っていないか？自分で捻じ曲げてしまっていないか？は絶えずチェックしていく必要があります。これも中谷さんの文章がそうになっているというわけではなく、今後書いていく上で気をつけていただきたいことです。  
今回の原稿で言うと、どこまでが事実でどこまでがが感じることなのか、境界線が分かりにくく感じるので、そこを明確にす

ありがとうございます！  
こうした表記は記事の掲載先や読者によって調整することが多いとは思いますが（メディアだと“編集方針”と呼んだりします）。

例えば

・子どもや外国籍の方など漢字が読みづらいかもしれない方に向けてであれば、漢字表記をなるべく開いてひらがなを用いる

・その人らしさを文体からも伝えるコラム企画等であれば、ライターならではの言い回し・表記をあえて使う

などがあるのかなと。私自身も目的や掲載先によって表記や言い回しを調整しています！なので今回ののケースも意図によ

受講生からは、文章表現の選択や読み手への伝わり方、インタビュー内容の整理方法などに関する具体的な質問が寄せられた。これに対しチューターは、読者層を踏まえた表現の工夫や、事実と解釈の切り分け、具体描写の重要性などを丁寧にフィードバックし、受講生自身が気づき再構成できるよう伴走支援を行った。

## 講座②ライティング講座 最終稿のチェック



### タイトル

弱さを奪わない仕事——ケアマネジャー・介護支援専門員として、揺れながらかわるということ——

### 本文

ケアマネジャー(介護支援専門員)として働くようになってから、私は「介護という仕事はなんて不思議な仕事なんだろう」と何度も感じるようになった。介護保険制度や仕組みを扱い、サービスの調整をし、書類に追われる仕事である一方で、その中心にはやっぱり「人の弱さ」と「そのまま生きていいという肯定」が静かに横たわっている。そして、この“弱さを肯定する”という営みこそ、私が介護の仕事を続ける理由のひとつになっている。

### ■弱さを弱さのまま受け止める場所

介護の現場には、いろんな弱さがある。身体の弱さ、記憶の弱さ、気持ちの揺らぎ、家族関係の難しさ。けれど、どの弱さも“矯正”されるべきものではない。必ずしも、強くならなくていい。昨日できたことが今日はできなくてもいい。涙をこらえられなくてもいい。

つ 垣花つや子  
13:31 1月16日

どこまでがタイトルでしょうか？

「介護のしごとが教えてくれたこと」は課題のテーマではありますが、タイトルとしては必須ではないため、別のものを検討していいかもしれません！

よる よる  
8:27 1月17日

タイトル変更しました

可愛 秋本可愛  
6:51 1月20日

削除: 「—」

受講生が作成した最終稿に対し、チェックシートに基づき、プロの編集者および運営が内容・表現の両面から確認・修正を行いました。タイトルや表現の精度向上、読者にとっての分かりやすさの観点から具体的なフィードバックを行い、発信内容の質の向上を図るとともに、実践的な編集プロセスを学ぶ機会としました。一方で、最終稿の段階で大幅な修正が必要となる受講生も一部見られたことから、より早い段階で一步踏み込んだフィードバックを行う必要があるという気づきも得られました。



## 講座③ 場づくり講座

介護の仕事の魅力をも、「場」を通して地域の人との関わりを通じて届けていくための実践型講座です。最近耳にする機会が増えてきた「場づくり」や「コミュニティづくり」。では、介護や福祉と掛け合わせたとき、そこにはどんな可能性があるのでしょうか。コロナ以降、地域とのつながりや人との偶発的な出会いが減ってしまった今、あらためて「人が集まる場」の価値が見直されています。

この講座では、場づくりを実践するゲストたちとともに、その風景や意味に触れながら、自分たちの施設や活動を地域に開いていくヒントを探ります。「なんのために、誰のために場をつくるのか」——そんな問いを手がかりに、介護・福祉の新しいつながり方にチャレンジする、5回連続のプログラムです。

### プログラム内容

	テーマ	講師
第1回	地域に開いた場づくりってなんだろう？	馬場 拓也 社会福祉法人愛川舜寿会 理事長
第2回	地域に開くってどうやるの？	橋本 康太 株式会社暮らり 代表取締役 菅野 美音 社会福祉法人丹緑会 介護職・広報 渡邊 瑠友 社会福祉法人丹緑会 介護福祉士・ユニットリーダー 山本 智志 社会福祉法人 淳風会 総施設長
第3回	みんなで作るってどういうこと？	藤本 遼 株式会社ここにある代表取締役 場を編む人
第4回	中間発表会！場づくり実践に向けて	藤本 遼 株式会社ここにある代表取締役 場を編む人
第5回	各自の困りごとや現時点の悩み相談会！	藤本 遼 株式会社ここにある代表取締役 場を編む人

## 講座③場づくり講座 第1回

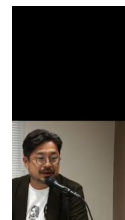
日時：10月15日(水)13:00～16:00



### プログラム内容

#### テーマ：地域に開いた場づくりってなんだろう？

- ・ 場づくりにおける関係性設計の重要性の理解（誰と場をつくるかという対象設定および新たな関係性を意図的に構築する視点の習得）
- ・ 参加者同士の相互理解を促進するプロセスの理解（チェックインや自己紹介を通じた対話設計と心理的安全性の醸成）
- ・ 場の広がりを生み出す構造的アプローチの理解（キーパーソンの設定やネットワークを起点とした参加者拡張の手法）



【平日】センターセンター  
プログラム：7つの機能

- 1.認知症グループホーム 1F・2F
- 2.小規模多機能型居宅介護
- 3.放課後等デイサービス
- 4.洗濯代行：コインランドリー
- 5.ロッケスタンド
- 6.寺子屋
- 7.コモンズルーム



### アンケート

- ・ 「場」とは何かを自分自身との対話を含めた機会がとてもよかったです。これも、「場」を作ってもらえたんだなと思いました。また、意見-経験-感情-価値観のピラミッドモデルも参考になりました。これに沿って自分自身の考えを整理できると良いのかなと感じています。
- ・ 場をつくる前に、誰とどんなふうに関わりたいのか、今までとは異なる関係性をつくるためにはどうするかを起点に考えていけたらと思いました。
- ・ 講義を聞くだけでなく、参加者の方とグループワーク等を通してお話しできたのがとてもよかったです。自施設以外の方と話をすることで、新しい考え方や言葉に触れることができ、とても新鮮で楽しかったです。
- ・ 「居場所とは人々が主体的に集まる場」という定義にとっても共感しました。また、自分が場づくりをする際にもこの視点を忘れないようにしよう、と思いました。
- ・ 地域の人々の声を聴くこと。今まで交流会を開催すること継続することに満足していて地域の声スタッフの声をしっかり聴けてないのではないかと考えることができました。



## プログラム内容

### テーマ：地域に開くってどうやるの？

- 地域における場づくり実践事例の理解（ゲスト講師による事例共有を通じた、プロセス設計・関係者の巻き込み・継続的運営に関する具体的手法の把握）
- 場づくりにおける役割・専門性からの脱却の重要性の理解（肩書きに依存しない関係性構築と、個人の関心や想いを起点とした関係形成の視点の習得）
- 関係性を深めるコミュニケーション設計の重要性の理解（雑談や対話の意図的な設計と、業務外の関わりを通じた信頼関係の醸成プロセスの把握）

#### 場づくりのコツ（淳風とよなか流）

- 無理をしない
- 気にしない
- 焦らない
- 「好き」を続ける
- 他人（地域や団体）を頼る

## アンケート


- ゲストの皆さんの事例などを聞いて、**義務役割では長続きしない**ということを理解した。まずは自分が興味を持って取り組んでいくことが大切だと学んだ。
- **巻き込む前に巻き込まれる**。顔を出すとだれかと繋がれる。好きは大事ですね。継続できるように考えます。
- 自分は、どうしても人前に出ることが苦手なので場づくりを任されるとプレッシャーに押しつぶされそうになるのですが、無理しない、気にしない等の話を聞いてそう思えるのが本当に理想だなと思いました。自分が頑張らないと！ではなく、**できる人に頼っていき**たいなと思いました。
- ゲスト講師の方たちは「**何のために地域に開くのか**」「**開かれた場は誰のためか**」という軸となる考えや思いは明確に持って「場づくり」をされているのだということが分かり、自分も「場づくり」をするにあたって、そのぶれない軸の部分をしっかりと持つ必要があると思いました。
- 外にベクトルを向けてましたが、**まずは内（自分）にベクトルを向けること**の大切さに気付きました。自分が何が好きで楽しいのか、何が出来て・何が出来ないのか、自分探しから始めること。自分を知ること、初めて他者と一緒に地域の希薄化や無関心を埋めていく事ができるのか？深めていきたいと思います。



### プログラム内容

#### テーマ：みんなで作るってどういうこと？

- ・ 場づくりにおけるファシリテーションの重要性の理解（対話を通じて参加者の主体性や関係性を引き出し、共創的な場を形成するための関わり方の習得）
- ・ 参加者同士の関係性を深める対話設計の理解（一方的な進行ではなく相互作用を促すコミュニケーション設計と心理的安全性の醸成プロセスの把握）
- ・ 継続的な場の運営を支える余白設計の重要性の理解（決めすぎない構造や関与の余地を残すことで、参加者の関わりしろを生み出し主体的な参加を促す手法の把握）

- 
- ・ 「みんな」とは？
  - ・ なぜ、みんなで作る？
  - ・ そのために必要なスキル

### アンケート

- ・ ファシリテーションのロールプレイを通して、雰囲気づくりや自己開示、タイムマネジメントの重要性を感じた。オブザーバーとして会議を観察できたことが新鮮だった。
- ・ 問いかけ次第で、その場が変化する。その変化を少しでもよい方向に持っていくために問いをレベルアップすることは大事だなと思いました。
- ・ 会議の次第内容の工夫。事前準備の大切さ。合意について。ファシリテーターを実際に実践してみて、それらのことをさらに実感した。フィードバック含めてわかりやすかったです。
- ・ 消極的だった会議の進行や意見交換など今後は積極的にできそうな気がする。
- ・ 問い方次第で意見の出やすさが変わってくる、そもそも人は自分の考えを100%言葉にすることができないから、それを問いで引き出し、言語化の支援をする、という内容がとても響きました。その技術を少しずつでも身に付けたいと思いました。

## 講座③場づくり講座 第4回

日時：12月17日(水)13:00～16:00



### プログラム内容

#### テーマ：中間発表会！場づくり実践に向けて

- ・ 場づくり企画の具体化に向けた実践的構想整理の実施（グループ内での発表を通じた企画内容の言語化と、試行錯誤や実践内容の共有による構造整理および具体性の向上）
- ・ 相互フィードバックを通じた企画精度向上の理解（グループ内での質疑応答を通じた多角的視点の獲得と、他者からの問いによる課題の可視化および改善プロセスの習得）
- ・ 実践に向けた次アクション設計の促進（グループ対話を通じた気づきの言語化と、自身の企画に対する具体的な改善点および今後の行動の明確化）

- ・ おひとり10分の時間をお渡し（ルームは45分）
- ・ プレゼンは4分以内で実施
- ・ 書いていることをそのまま話さない
- ・ 具体的にやってきた／試行錯誤したことを話す
- ・ 残りの6分は聞いているメンバーから質問



### アンケート

- ・ やるリスクもあるけどやらないリスクもあるということ。皆さんそれぞれの施設で周りの人を巻き込みながら活動しようとしており、行動力が素晴らしいと思いました。
- ・ 仲間づくりについてやモチベーションの維持についてなど、自分自身も直面して悩んでいる内容について様々な意見や視点をもらえたり、悩んでいるのは自分だけでなかったのだと知れたことは勇気になりました。
- ・ 仲間づくりには足を運び、自分から声を掛ける大事さを感じました。また実施に対して不安が大きかったのですが「行動したことの不安や恐れを書き出すこと、行動しなかったことによる損失やリスクも書き出す」といった新たな視点も学ぶことができ、前を向いて進めていけそうだと感じました。
- ・ 今後、実践に向けてタイムスケジュールや内容をより具体的に決めてグループに相談していきたいと思います。グループあってよかった！
- ・ 中間発表をやってみて自分を少し前に押せた気がします。講座が終わった後がすごく前向きで楽しい気持ちになりました。一緒に学んでいくっていいですね。



## プログラム内容

### テーマ：各自の困りごとや現時点の悩み相談会！

#### 同期生での教え合いと振り返り

- ・ 場づくり実践事例の共有を通じた学習機会の提供（受講生同士の発表を通じた試行錯誤や失敗・改善プロセスの共有と、チーム形成や関係構築に関する実践知の獲得）
- ・ グループ対話による振り返りと学びの深化の促進（各自の実践経験や課題の言語化と、問いを起点とした相互フィードバックによる内省および次のアクションの明確化）
- ・ オンライン特性を活かしたファシリテーション手法の理解（チャット活用・主体的参加を促す場づくり技術の習得）

「同期生での場づくり教え合いと  
場づくりとはなんであったのか？振り返り」



## アンケート

- ・ 意思決定のプロセスは大切であることを学んだ。今後の組織運営においても大切にしていきたい。
- ・ 大切にしたいことは隠さなくていい。掲げること。想いや熱量を言葉にして見える化すること。
- ・ 場づくりは「人と人」の関係性の上に成り立つものだということを、改めて実感しました。だからこそ、相手への気遣いだけでなく、自分自身の内観力を高めることも大切であり、その積み重ねが場を“光らせる”のだと感じました。
- ・ オンライン研修のグループワークってどんな感じなのか正直、不安しかなかったです。でも参加する中で、自分なりに物事が整理でき自分自身が職場や地域に向けて場をつくっていることがやりがいになっています。
- ・ 同じ福祉に関わる参加者の皆さんが、それぞれの悩みや課題を持ちながらも、この講座を通して一体感を育んでいけたことは、大きな学びでした。
- ・ 当初は自分がイベントを企画して始めるなんて思いもしていなかった。同じ業界の人たちが前を向いて動いている姿を知り勇気ももらった。自分の企画もこれから続けていき、広げていけたらと思う。この講座を受けて本当によかったです。

## 講座③ 場づくり講座 チューターによる受講生フォロー



### 場づくり講座チューター

4～5名に対して1名のチューターを配置し、オンライン・LINEグループにて受講生の課題に対してフィードバックや相談会を実施しました。



藤本 遼  
株式会社ここにある  
代表取締役



本間 彩寧  
株式会社ここにある  
作業療法士



杉浦 希望  
株式会社ここにある



大森 亮平  
株式会社ここにある  
NPO法人ソーシャル  
デザインワークス

### 支援内容

#### ・ 企画の具体化支援

抽象的なアイデア段階の企画について、目的・ターゲット・実施内容・スケジュールの整理を行い、実行可能な形へと落とし込む支援を行った。特に「小さく始める」視点を重視し、現場で実践できるレベルまで分解することを意識した。

#### ・ 関係者の巻き込みに関する支援

職場内外の関係者との温度差や協力体制の構築に関する課題に対し、日常的なコミュニケーションの積み重ねや、共感を得るための伝え方について助言を行った。また、既存の関係性や地域資源を活かした巻き込み方について具体的に整理した。

#### ・ 既存資源の活用支援

受講生がすでに関わっている場（認知症カフェ、地域イベント、職場内の取り組み等）を活用し、新たな企画をゼロから立ち上げるのではなく、既存の枠組みに乗せて展開する方法を提案した。

#### ・ 発信・広報に関する支援

企画の魅力を適切に届けるため、ターゲット設定の明確化や、媒体選定、告知タイミングの整理について助言を行った。また、発信内容の具体化により、周囲の理解と参加を促進する視点を共有した。

## 講座③ 場づくり講座 チューターによる受講生フォロー



### フォロー実施内容

#### ・運営・実施体制に関する支援

イベントや取り組みの実施に向けて、当日のオペレーション整理（役割分担、シフト設計等）や、事前準備のスケジュールリングについて具体的な助言を行った。

#### ・振り返りと再現性の言語化支援

実施済みの取り組みについては、成果や変化を整理し、「どのような行動が結果につながったのか」を振り返る支援を行った。これにより、次の実践に活かせる再現性のある学びとして定着させることを目的とした。

#### ・受講生同士の学び合いの促進

講座各回において、受講生同士が相互にフィードバックを行う時間を設け、多様な事例や視点の共有を行った。さらに、講座内での交流にとどまらず、オープンチャットを活用し、進捗状況や課題、悩みの共有を継続的に促した。

これにより、受講生同士が相互に刺激を受けながらモチベーションを維持するとともに、個別の課題に対する新たな気づきの獲得や、自身の企画のブラッシュアップにつながる環境を形成した。

## 講座③ 場づくり講座 チューターによる受講生フォロー



### メンタリング日程

#### ■C1グループ

- ・ 2026年1月9日（木） 19:00～20:30
- ・ 2026年1月12日（日） 10:00～11:30
- ・ 参加者数：5名

#### ■C2グループ

- ・ 2026年1月8日（水） 20:00～21:00
- ・ 2026年1月10日（金） 12:00～12:30
- ・ 参加者数：4名

#### ■C4グループ

- ・ 2026年1月8日（水） 19:00～20:30
- ・ 参加者数：4名

#### ■C5グループ

- ・ 2026年1月21日（水） 13:00～14:00
- ・ 参加者数：3名

#### ■C6グループ

- ・ 2026年1月19日（月） 18:30～19:15
- ・ 参加者数：2名

#### ■C7グループ

- ・ 2025年12月25日（木） 16:00～16:50
- ・ 2025年12月25日（木） 20:00～20:45
- ・ 参加者数：5名

メンタリングの実施については、基本的に各グループごとに1回の実施としたが、受講生のスケジュール調整の都合により、一部のグループにおいては2回に分けて実施した。

## 講座③ 場づくり講座 チューターによる受講生フォロー



### 場づくりとして躓きやすいポイント

ターゲット設定の不明確さ	「誰に来てほしいのか」が具体化されていないことで、企画内容や発信方法がぼやけてしまうケースが多く見られた。特に「幅広く来てほしい」という意図が、結果として誰にも届きにくい状況を生んでいた。
関係者との温度差への戸惑い	職場内や地域において、企画に対する関心や熱量の違いに直面し、進め方に悩む受講生が多く見られた。自身の思いが強いほど、そのギャップに対する負担感が大きくなる傾向があった。
他者に自分の想いを伝える心理的なハードル	自身の想いや企画意図を周囲に発信することへの心理的ハードルにより、企画を個人で抱え込む傾向が見られた。その結果、協力者の獲得や役割分担が進まず、実行に向けた推進力が生まれにくい状態となっていた。
既存資源の活用不足	新たに場を立ち上げようとするあまり、すでに存在する地域や職場内の取り組みを十分に活かしていないケースが見られた。ゼロからの立ち上げが負担となり、実践に至りにくい要因の一つとなっていた。
「大きくやらなければならない」という思い込み	成功事例や他者の取り組みと比較したり、場づくりはイベントづくりという本人の既存のイメージから「大きな企画を実施しなければならない」「イベントをしなければならない」と捉えてしまい、実践へのハードルが上がっているケースが見られた。その結果、具体的な一歩が踏み出しづらくなる傾向があった。

### 必要な支援

「小さく始める」ことによる実践のハードル低減／目的・ターゲット・手段の整理による企画の具体化  
既存の関係性や場を活用した展開の提案／関係者との対話を通じた巻き込みの促進／実践と振り返りを往復するプロセスの支援

## 講座③ 場づくり講座 チューターによる受講生フォロー



### 多様な意見の中で実践を続けた織原 大さん 相談員/介護福祉士

織原さんは当初、「制度の狭間にいる人（ハザマー）」に対する問題意識を起点に企画を構想していたが、活動の方向性や周囲への伝え方に悩みを抱えていた。また、地域での実践を進める中で、地域の方から取り組みに対して否定的な反応や厳しい意見を受ける場面もあり、必ずしも周囲の理解が得られている状況ではなかった。

そのような中でも、場づくり講座の同じチームメンバーにも進捗を共有、相談しながら自らの関わり方や行動を工夫しながら実践を継続した。メンタリングにおいては、織原さんの取り組みの根底にある「なぜこの活動を行うのか」という動機や原体験を明確に言語化する支援を行った。「制度の狭間にいる人に目を向けた織原さんの想いそのものに価値があること」「社会的意義だけでなく、個人の想いが共感を生む起点になること」をチューターから伝え、企画においてその想いを積極的に表現していく重要性をフィードバックした。

また、企画の具体化に向けて、「目指せ100人」といった分かりやすい目標設定や、「ハザマーを支える仲間（サポーター）を増やす」という指標を置くことで、行動の方向性を明確にする支援を行った。さらに、「人の数だけ役割がある」という観点から、支援される側・する側といった固定的な関係性ではなく、関わる人それぞれが役割を持ち得る場づくりの可能性についてもチューターから伝えた。

チームメンバーやチューターとの関わりを通じて、織原さんの中で、「やりたいこと」と「地域での実践」が明確につながり始め、批判や温度差がある中でも行動を継続する中で、必要な情報や関係性を自ら獲得していく姿勢が生まれ、主体的に地域と関わることができた。その結果、地域の現状の解像度が上がったり、実際に地域で困りごとを抱える方との接点をつくったりすることができた。今後は、「狭間erを生まない地域」を育むことを目指し、既存のつながりを活かしながら、新たな担い手や仲間を増やしていく取り組みを継続していく予定である。

## 講座③ 場づくり講座 チューターによる受講生フォロー



### 周囲を巻き込みながら実践を展開することができたYさん 介護福祉士

Yさんは、「地域の中で交換し合う場づくり」をテーマにした企画を構想・実践した。当初は、物品のリユースを中心とした企画を検討していたが、チューターからの実践事例の共有を踏まえ、「モノの交換」にとどまらず、「知恵・経験・体験といった無形の価値も交換する場」へと企画をアップデートしていった。

企画初期の段階では、「自分一人で進めなければならないのではないか」「自分ができなければどうしよう」といった不安を抱えており、主体的に動こうとする一方で、周囲に頼ることへのハードルも感じている様子が見られたが、講座の学びを活かし、「やりたいことを言葉にして周囲に発信する」ことを意識的に実践した。その結果、日頃関わっているスタッフに企画の意図を共有することができ、スタッフが自発的に新たな企画書の素案を作成するなど、主体的に関わる動きが生まれた。さらに、他のスタッフの趣味や特技といったリソースも新たに知ることができ、企画に活かせる要素が広がっていったことで、仲間の理解を深めながら地域イベントの具体的なイメージを描くことができるようになっていた。

メンタリングにおいては、「なぜ軌道にのったのか自分ではよく分からない」と話すYさんに対し、行動を振り返りながら、Yさんがこれまで日常的に行ってきた「周囲の声を拾う関わり」や「小さな役割を任せる関係性づくり」に着目し、それらが今回の企画における巻き込みにつながっている点をフィードバックした。また、「どのように人を巻き込んだのか」というプロセス自体を振り返り、可視化することが、今後の再現性や展開、仲間の学びにおいて重要であることを伝えた。加えて、実施に向けては具体的なスケジュール設計を行い、段階的に進めていく必要性についても助言を行った。

イベントは今後実施予定だが、Yさん自身「大きな一歩を踏み出すことができた」と話され、自身の変化も実感することができた。

## 講座③ 場づくり講座 チューターによる受講生フォロー



### 受講生の主な変化・成果

本講座におけるメンタリングおよび伴走支援を通じて、受講生の企画に対する解像度が高まり、実施に向けた具体的な行動が明確化された。また、企画を言語化し周囲に共有するプロセスを重ねることで、職場内外の関係者との対話が増加し、協力者の獲得や役割分担が進むなど、実行に向けた体制構築が促進された。

加えて、既存の取り組みや個人の関心・資源を活かしながら、新たな企画が派生的に生まれるなど、現場に根差した実践が広がっていった。実際に企画を実践に移す受講生が具体的な成果や手応えを得るとともに、自信の醸成にもつながっていた。こうした実践を通し、課題や改善点が整理され、次のアクションへとつながる視点が形成されている。

これらの変化から、受講生が自らの実践を通じて学びを深め、周囲を巻き込みながら行動へと移していくプロセスを支援する機会となっていたといえると考える。

## 講座③ 場づくり講座 チューターによる受講生フォロー



### 対面交流(新年会)の実施

オンライン上での関わりにとどまらず、受講生同士およびチューターとの関係性を深める機会として、対面での交流の場（新年会）を関東・関西それぞれで実施した。食事をともにしながらフラットに対話できる環境を設けることで、講座内では共有しきれない背景や想いの共有をすることができた。

※ 本会は補助対象外

#### 《実施概要》

##### ■ 関東開催

日時：2026年1月5日（日）19:00～21:00

会場：麴蔵 八重洲一丁目店

参加者：運営（株式会社Blanket）1名、  
チューター（株式会社ここにある）1名、  
受講生3名

##### ■ 関西開催

日時：2026年1月9日（金）19:00～21:00

会場：てつたろう 梅田中崎町店

参加者：チューター（株式会社ここにある）  
4名、受講生5名



## 受講生の参加状況(リアルタイムでの受講数)



SNS

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
40	34	28	29	23



ライティング

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
34	31	27	27	24



場づくり

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
25	25	29	25	24

各講座のリアルタイム受講者数は、回を重ねるごとに一定の減少が見られたものの、各回で安定した参加が維持された。SNS講座およびライティング講座では初回からの参加者数が比較的多く、その後緩やかに減少する傾向が見られた。一方、場づくり講座は大きな増減はなく、一定の参加者数を維持して推移した。全体として、継続参加のハードルや受講スタイルの影響が示唆される結果となった。

## アーカイブ視聴

アーカイブ動画の  
総視聴回数

2,640回

アーカイブ動画の  
総視聴時間

1736時間36分

集計期間 2025年10月10日から2026年3月31日まで

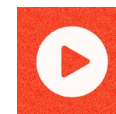
講座内容をアーカイブ動画として提供することで、時間や場所の制約を超えた学習機会の確保を図りました。これにより、リアルタイムでの参加が難しい受講生に対しても継続的な学習環境を提供するとともに、講座内容の振り返りや反復学習が可能となっています。

特に、各講座の初回コンテンツ（ライティング講座、SNS講座、場づくり講座）はいずれも高い視聴数を記録しており、基礎的な内容への関心の高さがうかがえます。

動画タイトル（視聴回数上位10本）	視聴回数
ライティング講座DAY1 (10.17) 自分が伝えたいことってなんだろう？	315
SNS講座DAY1 (10.21) “伝えたい想い”を言語化しよう	286
場づくり講座DAY1 (10.15) 地域に開いた場づくりってなんだろう？	262
全体_1005_キックオフ講座	225
講義動画(岸田奈美氏講義&グループワーク)_1005_キックオフ講座	214
岸田奈美氏講義_1005_キックオフ講座	168
SNS講座DAY2 (11.13) 魅力が伝わるアカウントを設計してみよう	140
ライティング講座DAY2 (11.07) どうすれば伝えたいことが「伝わる」？	133
場づくり講座DAY2 (11.06) 地域に開くってどうやるの？	130
SNS講座 DAY3 (11.27) 伝わる動画の作り方	129

# 受講生の成果物について

## SNS講座 成果物



講座の学びを受けて、受講生はショート動画の制作に取り組みました。制作された動画は計31本となり、KAIGO LEADERSのYouTubeアカウントにて公開しています。

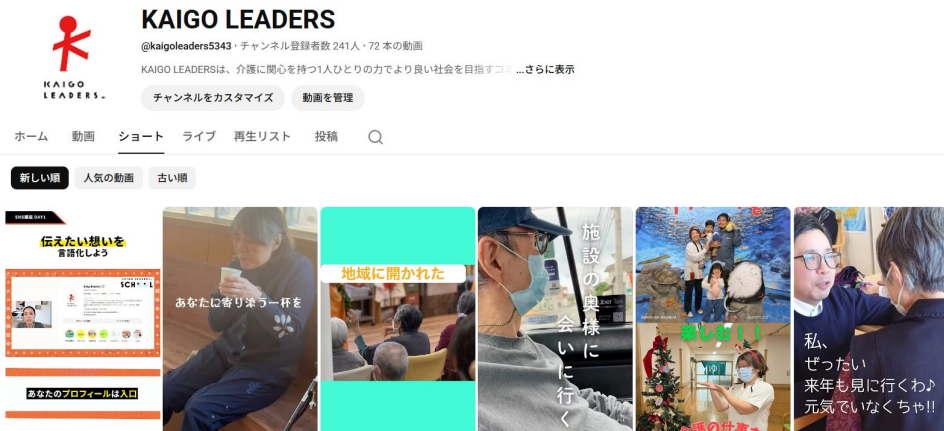
これらの動画は再生リストとしてまとめて掲載しており、介護の仕事の魅力や現場のリアルな様子を広く発信しています。

### 成果物と公開先

成果物件数：ショート動画31本

KAIGO LEADERSのYouTubeアカウント：@kaigoleaders5343

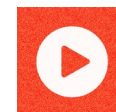
再生リスト：<https://youtube.com/playlist?list=PLxYQuQTz0AFT-ofnAPgKPdJhfOomQvbP2&si=27tGMeqcd7QVrh6F>



≡ 並び替え



## SNS講座 成果物



視聴回数

YouTubeにアップしたショート動画の総視聴回数は20,079回となりました。(2026年4月6日時点)

動画タイトル	視聴回数	動画タイトル	視聴回数
No.01 ケアの魅力ってコレか！その人の"ちょうどいい"とは？	1701	No.16 楽しい秋祭り	106
No.02 お芋を通して知った激動の人生	1816	No.17 介護福祉士と二児の母どちらもやりきる！その原動力とは・・・	141
No.03 誰かのためにやってみたくなる！利用者の主体性が動き出した瞬間	481	No.18 サロンが始まるニャ！	114
No.04 とある日の午後…今日のクラブ活動は人気の〇〇!!	1786	No.19 入居者からのことばの贈物	267
No.05 自分の人生 最期まで諦めない場所がここにある!!	148	No.20 ここで働く毎日が、誇りになる	165
No.06 素敵な訪問介護	302	No.21 「不安から安心」へ。寄り添うことから始まる介護の仕事	3441
No.07 保護犬モコのシンデレラストーリー ～老人ホームで働く犬～	756	No.22 介護の常識がひっくり返った言葉3選	316
No.08 バリ島より	395	No.23 ころも温まるカフェの日	109
No.09 一杯のコーヒーが教えてくれた、"寄り添う"ということ	431	No.24 訪問介護の魅力	88
No.10 幸せな暮らしと働き方を。	565	No.25 介護職の私が思う介護の魅力	1237
No.11 中山ちどりの推し	2275	No.26 また明日から頑張れる	261
No.12 私が働く訪問看護の仲間を紹介します	270	No.27 介護を支えるロボット紹介	1811
No.13 今年はどこへ？秋の外出行事♪	274	No.28 その声、大きすぎない？   言葉ににじむ仕事の流儀	151
NO.14 数年ぶりに施設で暮らす奥様に会いに行く	261	No.29 介護=大変、だけじゃなかった	138
No.15 小さなダンサーが届けた笑顔の時間	106	No.30 【採用HP撮影の裏側】 普段の雰囲気をも、そのまま形にしました 🌸	154
		No.31 デイサービスで握り寿司	643



## ライティング講座 成果物

講座の学びを受けて、受講生はエッセイ記事やインタビュー記事の制作に取り組みました。制作された記事は計38本となり、KAIGO LEADERS SCHOOLのnoteアカウントにて公開しています。

### 成果物と公開先

成果物件数：記事38本

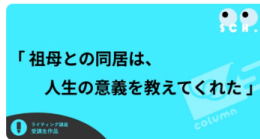
KAIGO LEADERS SCHOOLのnoteアカウントリンク：[https://note.com/kaigoleaders\\_sch](https://note.com/kaigoleaders_sch)



「介護のしごと」が与えてくれた私の宝物

KAIGO LEADERS SCHOOL 2か月前

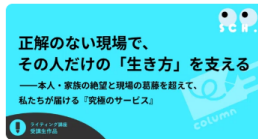
♡ 14



「祖母との同居は、人生の意義を教えてくれた」

KAIGO LEADERS SCHOOL 2か月前

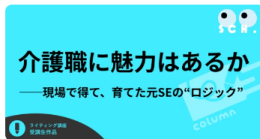
♡ 12



正解のない現場で、その人だけの「生き方」を支える——本人・家族の絶望と現場の葛藤を超えて、私たちが届ける「究極のサー...

KAIGO LEADERS SCHOOL 2か月前

♡ 13



介護職に魅力はあるか——現場で得て、育てた元SEの“ロジック”

KAIGO LEADERS SCHOOL 2か月前

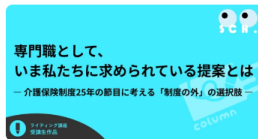
♡ 11



自分らしい生き方を作っていく—人生史を通して心豊かに暮らす富永千春さんから学ぶ—

KAIGO LEADERS SCHOOL 2か月前

♡ 11



専門職として、いま私たちに求められている提案とは——介護保険制度25年の節目に考える「制度の外」の選択肢——

KAIGO LEADERS SCHOOL 2か月前

♡ 10



弱さを奪わない仕事——ケアマネジャーとして、揺れながらかわっていくこと——

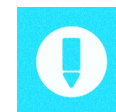
♡ 14

KAIGO LEADERS SCHOOL  
2020年2月4日 17:39

ケアマネジャー(介護支援専門員)として働くようになってから、私は「介護という仕事はなんて不思議な仕事なんだろう」と何度も感じるようになった。介護保険制度や仕組みを扱い、サービスの調整をし、書類に追われる仕事である一方で、その中心にはやっぱり「人の弱さ」と「そのまま生きていい」という肯定が静かに横たわっている。

そして、この弱さを肯定するという営みこそ、私が介護の仕事続ける理由のひとつになっている。

## ライティング講座 成果物一覧①



noteにアップした記事の総ビュー数は5,448回となりました。（2026年4月9日時点）

記事タイトル	ビュー数
「自信はないが私の声はよく通る」	99
人生は人生ゲーム ルーレットを回すのは自分だが、どのマスに止まるかは運次第	158
弱さを奪わない仕事—ケアマネジャーとして、揺れながらかわるということ—	341
大変だけどやりがいがある、だけじゃない介護職の日常 —介護を通して人生を考える	81
「福祉のしごと」が過激派ソーシャルワーカーのわたしに教えてくれたこと	104
これから介護を考える人へ——介護のしごとが私に教えてくれたこと	86
“今”が怖くて、“未来”が不安な私たちへ	112
自分らしく生きる力を得る。動物の勉強をしていた若者が思う、「介護の仕事が教えてくれたこと」	65
専門職として、いま私たちに求められている提案とは — 介護保険制度25年の節目に考える「制度の外」の選択肢 —	186
「変わらないまなざし」	144
正解のない現場で、その人だけの「生き方」を支える ——本人・家族の絶望と現場の葛藤を超えて、私たちが届ける『究極のサービス』	266
介護職に魅力はあるか——現場で得て、育てた元SEの“ロジック”	111
介護の仕事に飛び込まなかったら、こんなに変わらなかった	139
それでも、自分であり続ける —— 介護の現場で見つけた『そのひとらしさ』	86
気づいたら、介護は自分のものになっていた — 誰かの時間に寄り添うということ —	93
「介護の仕事に携わる今、感じること」	92
「祖母との同居は、人生の意義を教えてくれた」	106
「2年間の現場経験から伝えたい、介護の仕事の魅力」	82
泣いている理由を、私は知らなかった ～ 上に立つ人として、限界に気づいた瞬間 ～	106

## ライティング講座 成果物一覧②



記事タイトル	ビュー数
「介護のしごと」が与えてくれた私の宝物	122
人は制度ではなく、つながりで続いていく —18年の介護現場が教えてくれた定着の理由	98
『介護をとおして笑顔になってほしい』	114
介護のしごとが教えてくれたこと ～「記録」は一人の人生の物語だった～	79
「それがすごく尊い…尊いで終わらせたくないんですけど」、専門性を持たないからこそできる言語化を目指して。 平成医療福祉グループ、田中鳩子さん	97
介護は、人生と一緒に作る営み？地域と混ざり合う特養で働く菅野美音さんに聞いたこと	111
ヒトモノコトの紡ぎ人・伴琴絵さんが語る「ゆるやかなつながり」の力	114
自分らしい生き方を作っていく—人生史を通して心豊かに暮らす富永千春さんから学ぶ—	246
「生きる」という福祉、「食べる」という福祉	109
介護とライターのしごとを経験して得られた発見	102
目の前の「困りごと」に、体が動く	87
誰かの自分らしさに向き合うことで、私も自分らしさを探求できる。循環を生み出せる仕事。	119
「優しい人が向いている」の本当の意味。介護の優しさは技術だ。	154
「自分が一生懸命になれる仕事は、介護だった」 迷いながら働く私たちへ：ケアの現場で20年、宮澤潤さんが教えてくれたこと	257
現場で見えてきたことを、なかったことにしない——「介護の魅力を伝えたい」と願いつける私たち	110
私たちはバラバラの経歴のまま誰かの人生に触れていい。	241
対人支援職へのエール。自分の弱みが誰かの希望になるなら、 自分の弱みも強みも私達の大切なエッセンスであることが分かった。	188
「こんなところにいたくない」介護職の私がこの言葉に思うこと	114
人として—Y田のじいちゃんを通して—	92



## 場づくり講座 成果物

講座の学びを受けて受講生は場づくりの企画書を作成しました。2026年1月までの取り組みをまとめた「企画と実践の記録」について、24名の受講生の成果物が集まりました。

これらはnoteで全員の事例を紹介するとともに、これから場づくりについてアクションを起こしてみたい人がヒントを得られる冊子を制作しました。本冊子はPDFデータをダウンロードすることができます。

### 成果物と公開先

成果物件数：24件

[https://note.com/kaigoleaders\\_sch/n/n999e4906f4bf?sub\\_rt=share\\_sb](https://note.com/kaigoleaders_sch/n/n999e4906f4bf?sub_rt=share_sb)に

全受講生の企画・実践事例を公開

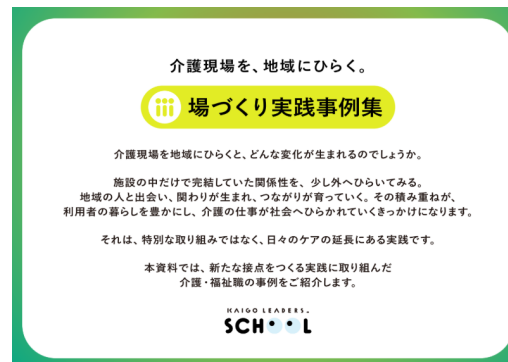
[https://drive.google.com/file/d/1n9NnN\\_4oyltC\\_zRCPDlez-cvWSnot9fC/view?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/file/d/1n9NnN_4oyltC_zRCPDlez-cvWSnot9fC/view?usp=drive_link)で

「場づくり実践事例集」を公開 誰でもPDFデータダウンロード可能

### ▼全企画と各受講生の実践や軌跡をnoteで公開



### ▼実践事例のダウンロード資料



## 受講生発信の到達 — 介護職の声はどこで、誰に届いたか

介護職が自らの言葉で発信したコンテンツが届いたチャンネルと規模を整理しました。マスメディア型の拡散ではなく、信頼できる個人の関係性を起点に、発信の接点を多様に創出することを重視しました。

# 発信した介護職 93名

成果物（動画31本・記事38本・場づくり実践24件）が、受講生自身の言葉で発信されました



※上記は受講生の個人のアカウントでの発信による閲覧数などは含まれていません。

# 事業評価指数の達成状況

企画書にて掲げた事業評価指数と本事業の実績を比較。主要指標は全て目標達成または超過。

カテゴリ	評価指標（提案書）	目標値	実績値	達成
発信意欲を持つ 介護職の増加	受講生数（3コース合計）	150名	139名(SNS・ライティング50名、場づくり39名)	△
	アーカイブ動画視聴	350名	336名 視聴回数2,640回／総視聴1,736時間	△
	募集説明会 参加者数	300名	全7回開催 申込285名（重複含）	△
	発信・場づくり意欲の向上	80%以上	心理的ハードル低下 73～93%	✓ 達成
	講座離脱率	10%未満	SNS38%、ライティング24%、場づくり38% ※最終課題の提出まで終わった人数以外は離脱とカウント	× 未達
	報告会 介護職参加	対面70／オンライン150	対面61／オンライン116（介護職含む合計） ※アーカイブ視聴 274回	△
介護職でない 人への認知拡大	SNS投稿数（受講生）	500件以上 →1人1本に変更	ショート動画31本＋連携発信／受講生個人SNS発信	※指標変更
	再生・インプレッション	50,000以上	YouTube 2,079回＋楽天連携広告（多数表示）	※指標変更
	記事数（note／ブログ）	計50本	note記事38本＋場づくり実践事例24件＝62件	✓ 超過
	note／ブログPV	30,000PV	note 5,448PV＋WEB投票表示618,649回	-
	報告会 一般参加	対面50／オンライン100	報告会合計177名＋アーカイブ274視聴	△
	メディア掲載数	5媒体	業界紙2＋PRTIMES経由26媒体転載＝計28媒体	✓ 超過
講座効果 （心理・行動変容）	心理的ハードル低下	—	SNS 73% / ライティング 80% / 場づくり 93%	◎
	行動指標（投稿・継続）	SNS50% / W50% / 場 25%	SNS 58% / W 95% / 場 100%	✓ 超過
	誇り・自己肯定感向上	—	SNS 73% / W 68% / 場 83%	◎
	知識・スキル向上	70%	全講座 100%	✓ 超過

※ 報告会参加者数は介護職・一般を分離計測していないため合計値で評価（YouTubeアーカイブ視聴274回含めると累計のべ451名）。各種数値は2026年3月31日時点（一部Excel報告書提出時点）。

# 厚労省事業5つのアウトカムへの寄与

本事業が、厚労省「介護のしごと魅力発信等事業」が目指す5つのアウトカムにどう寄与したかを活動別にマッピング。

①	介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える	受講生が制作した動画31本・記事38本・場づくり実践24件、介護職自身の声が届く新たなアクションが生まれました。また、投票サイトへのユニークユーザー40.8万人、楽天連携広告による接点も創出しています。
②	介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える	KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025の開催（対面61・オンライン116）／矢部太郎氏・竹端寛教授のトークで介護関係者以外の関心も喚起しました。
③	介護の仕事について理解する人が増える	ライティング講座38記事（具体的現場エピソード発信）＋場づくり実践事例集24件で現場の理解を深化させました。
④	介護の仕事に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）	社会の広告社賞／マガジンハウス「ここに」賞／朝日新聞「これからのKAIGO」賞により介護職発信への第三者評価を付与しました。受講生が外部受賞（OPEN CARE PROJECT AWARD 2025・かながわ福祉サービス大賞）も実現しました。
⑤	介護職の意識変容（重点アウトカム）	心理的ハードル低下 73-93％／投稿・継続実行 58-100％／誇り向上 68-83％／学び実感全講座100％を定量測定で確認しました。また、継続的発信者を支えるコミュニティを形成しました。

# 受講生の変容

## 各講座実施に関する事業効果

※目標達成は赤字、目標未達成は青字で表記

指標	目標値	SNS	ライティング	場づくり
①心理的ハードルの低下	80%	73%	80%	93%
②行動指標 (投稿・継続)	SNS:50% ライティング:50% 場づくり:25%	58%	95%	100%
③介護職である事の誇り (自己肯定感)の向上	60%	73%	68%	83%
④知識・スキルの向上	70%	100%	100%	100%

### 【補足】

- ①心理的ハードル低下は、10段階評価（1：大きく上がった～10：大きく下がった）における「6～10」と回答した割合を示す。なお、測定対象は講座ごとに異なり、SNS講座・ライティング講座では発信、場づくり講座では場づくりに対する心理的ハードルについて測定。
- ②行動指標は講座ごとに測定内容が異なる。SNS講座およびライティング講座では講座課題の投稿実施状況、場づくり講座では講座終了後の「継続的に活動できそうか」に対する「はい」の回答割合を指標とする
- ③介護職である事の誇り（自己肯定感）の向上は、10段階評価（1：向上していない～10：向上した）において「8～10」と回答した割合を示す
- ④知識・スキルの向上は、「今後の仕事や発信に活かせるような学びはありましたか」という設問に対し、「はい」と回答した割合を示す

# 自由記述からみる受講後の変化

## 心理的ハードルについて

### ▼受講前

- ・語る言葉を持っていないこと、そして更新続ける根気があるか自信がないこと（ライティング）
- ・自分で継続して発信できるのだろうか（ライティング）
- ・自分が発信して何か変わるのだろうか（ライティング）
- ・発信することにあこがれていますが怖いです。自分の文章で人が傷つきそして傷つけられるのが怖いです。（ライティング）
- ・SNSに対して苦手意識が強く、わからない事ばかり（SNS）
- ・動き出すきっかけをなかなか作れていない（場づくり）
- ・どう地域と繋がっていけばよいか…はじめの一步を教えてほしい（場づくり）

### ▼受講後

- ・こんなに優しく丁寧に教えてもらい私でもできる！かも！と思えました（SNS）
- ・初めは、この講座に申し込んだ事すら後悔するくらい動画作成に苦戦しました。でも、講師の方々や事務局の方々のフォローのお陰で最終日までこぎつけました。何か不得意に挑戦してみる事の大切さも実感でしました。（SNS）
- ・書くことに対して苦手意識があったが、自分の経験でもいいと思えた（ライティング）
- ・自分の言葉で表現することに最初は抵抗があったが、やってみると楽しかった（ライティング）
- ・何を書けばいいかわからなかったが、テーマのを見つけ方が分かった（ライティング）
- ・発信することに対しての不安はあるが、それ以上にやってみたい気持ちが強くなった（場づくり）
- ・自分自身の気持ちやモチベーションが高まり、場づくりへの覚悟が定まったと感じた（場づくり）

## 自由記述からみる受講後の変化

### 介護職である事の誇り（自己肯定感）の向上について

#### ▼受講前

- ・介護への想いを共にする仲間と出会えることが何よりも楽しみ（ライティング）
- ・スキルアップできれば自信を持ち、楽しみながら仕事に役立てることができると考えています（SNS）

#### ▼受講後

- ・自分の仕事をどう見せるか考えるきっかけになった（SNS）
- ・自分の仕事の価値を言葉にすることで、改めて意味を感じた（ライティング）
- ・何気ない日常が価値あるものだと気づいた（ライティング）
- ・自分の仕事を誰かに伝えたいと思えるようになった（場づくり）
- ・介護の仕事に対する見方が変わり、誇りを持てるようになった（場づくり）

### 知識・スキルの向上について

#### ▼受講後

- ・意志力に頼ることなく、時間や頻度を決めることで続けられるとわかった（SNS）
- ・今まで全く未知だった動画の編集を教えてもらえてとても良かった（SNS）
- ・自分の経験をどう切り取るかが学びになった（ライティング）
- ・伝えるためには誰に届けたいかを考えることが大事だと分かった（ライティング）
- ・施設職員として"という役割を持った上で場づくりを進めようとしていましたが、考え方をフラットにすることで、実施へのハードルが下がり、同時に考え方も広がった気がしました。（場づくり）

## SNS講座 講座アンケート

	DAY1	DAY2	DAY3	DAY4	DAY5
回答数	46	33	24	26	24
①講座全体の満足度	4.3	4.3	4.4	4.7	4.6
②講座内容の理解度	4.1	4.0	4.1	4.5	4.5
③今後の仕事や発信に 活かせる学びの有無	95.7%	93.9%	95.8%	100%	100%
④介護の魅力発信や地域活動 に対する心理的ハードル	6.4	5.9	6.4	7.2	7.4

### 【補足】

- ① 5段階評価（1：満足していない～5：とても満足している）の平均値
- ② 5段階評価（1：理解できていない～5：とても理解できた）の平均値
- ③ 「今後の仕事や発信に活かそうな学びはありましたか」に対する「はい」の回答割合
- ④ 10段階評価（1：強く感じる～10：全く感じない）の平均値

## ライティング講座 講座アンケート

	DAY1	DAY2	DAY3	DAY4	DAY5
回答数	38	31	29	25	25
①講座全体の満足度	4.7	4.5	4.4	4.6	4.7
②講座内容の理解度	4.1	4.2	4.1	4.2	4.6
③今後の仕事や発信に 活かせる学びの有無	100%	96.8%	93.1%	96%	100%
④介護の魅力発信や地域活動 に対する心理的ハードル	6.5	6.0	7.3	7.7	6.8

### 【補足】

- ① 5段階評価（1：満足していない～5：とても満足している）の平均値
- ② 5段階評価（1：理解できていない～5：とても理解できた）の平均値
- ③ 「今後の仕事や発信に活かそうな学びはありましたか」に対する「はい」の回答割合
- ④ 10段階評価（1：強く感じる～10：全く感じない）の平均値

## 場づくり講座 講座アンケート

	DAY1	DAY2	DAY3	DAY4	DAY5
回答数	20	19	18	12	12
①講座全体の満足度	4.5	4.5	4.4	4.8	4.8
②講座内容の理解度	4.0	4.2	4.1	4.8	4.6
③今後の仕事や発信に 活かせる学びの有無	95%	100%	100%	100%	100%
④介護の魅力発信や地域活動 に対する心理的ハードル	5.8	6.2	6.1	6.3	6.5

### 【補足】

- ① 5段階評価（1：満足していない～5：とても満足している）の平均値
- ② 5段階評価（1：理解できていない～5：とても理解できた）の平均値
- ③ 「今後の仕事や発信に活かそうな学びはありましたか」に対する「はい」の回答割合
- ④ 10段階評価（1：強く感じる～10：全く感じない）の平均値

## Before/After 個人ペア比較 — 受講生の変容を個人単位で実証

事前アンケートと受講後アンケートを個人ID（名前）で紐付け、同一受講生の心理的ハードル変化を可視化しました（企画委員会「Before/After比較」助言への対応）。



### SNS

n=17

平均ハードル Before → After

6.76 → 7.53

変化量 +0.76 pt

改善した受講生の割合

64.7% (11名)

事前アンケート×DAY5アンケートを名前でマッチング



### ライティング

n=23

平均ハードル Before → After

6.30 → 6.57

変化量 +0.26 pt

改善した受講生の割合

56.5% (13名)

事前アンケート×DAY5アンケートを名前でマッチング



### 場づくり

n=18 (LINE追加検証)

場づくりに対するハードルが下がった

94.4%

17/18名が「下がった」と回答

誇り向上 83.3% (15/18)

事前アンケートが「発信・地域にひらく活動」を測定し場づくり固有ハードルと異なるため、講座後のLINEアンケート (n=18) で代替検証

### 本分析の意義

- ・同一個人での Before/After 比較により、講座外の要因を排除した純粋な介入効果を測定
- ・心理的ハードル（1=強く感じる～10=全く感じない）の10段階評価で、3講座とも個人レベルで改善傾向を確認しました



## 場づくり講座から広がる変容

参加者の価値観の変化・主体性の向上・行動意欲の喚起という点で高い成果を上げました。今後の仕事や発信に活かせるような学びはありましたか？(はい・どちらでもない・いいえの3択)で「はい」と回答した割合は100% (n=23) と実践的な学びであったといえます。

### 講座を通じて起きた変容

#### ▼受講生に起きた変容

##### ・場づくりの理解や仕事観の再定義がされた

「義務的に考えていた自分がいたので、改めて場づくりについて考えたい」「自分は何をしたいのかという問いにたどり着いた」

##### ・行動意欲が増し、仲間ができたことでのエンパワメントがあった

「居場所を作っていきたいと思いました。」「同じ考えの人がいることを知れて勇気をもらいました。」「こういった実践が日本中に広がったら町が元気を取り戻すかとも思い、ワクワクしてきました。」

#### ▼受講生がつくった場に接触した人に起きた変容

##### ・地域の方の介護施設に対する認識が変化し、信頼や安心感が醸成された

「町内会長からは、『この施設になら親を預けたいと思った』」

##### ・家族との関係性が再接続され、継続的な関わりが生まれた

「いつも来られないご家族がイベントに来られ、そのあとも施設に来ていただけるようになった」

##### ・地域や関係者との関係性が構築され、次の協働につながる関係が生まれた

「(今回巻き込んで一緒に場を作った方と) 次回は桜の咲く頃に一緒に何か企画しようと約束しており、築いた関係をこれからも継続していきたい。」「ケア職の方からは「外来にくる患者さんへの眼差しが変わった」など具体的な眼差しの変化の声も聞かれたたり、「身近でできることを続けていく」という感想も」



## 場づくり講座 — 1人の介護職が地域に新しい関係性を生む

振り返りアンケート（n=22）より、場づくり実践を通して仲間が増えたかを集計しました。21/22名（95.5%）が「1人以上の仲間」を獲得しています。

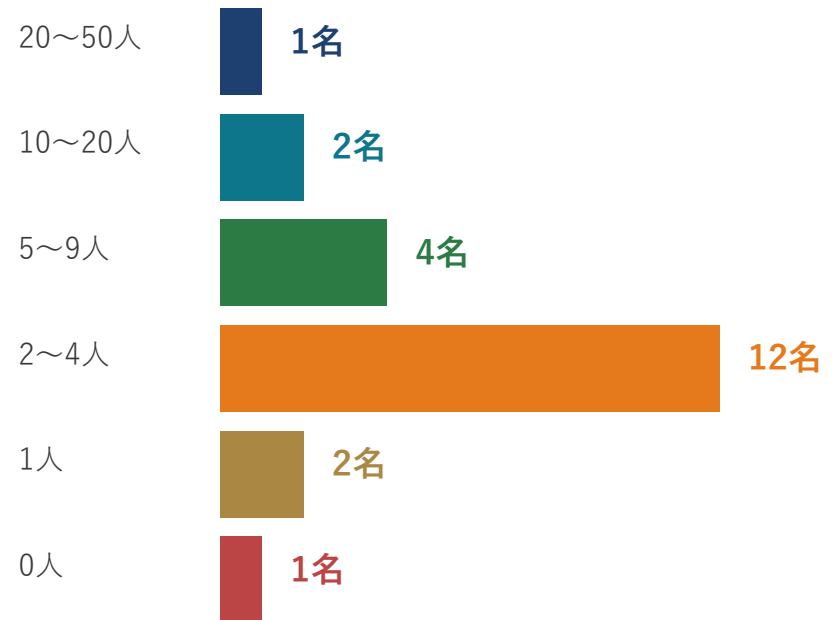
場づくりを通して仲間が増えた受講生の割合

# 95.5%

21名 / 22名（振り返りアンケート）

★ 介護職1人が**地域住民・家族・同僚**など数名～数十名と新しい関係性を築いた証左です。  
「場づくり」が単なるイベント開催ではなく、地域と介護現場の関係人口を創出する施策として機能していることを示しています。

獲得した仲間の人数分布（n=22）



出所：場づくり講座 振り返りアンケート（n=22、設問「場づくりの実践を通して仲間は増えましたか？」）



## 受講生が地域に生んだ変化 — 介護イメージの転換を実証

受講生が場づくり等を実践した結果、地域住民・家族・医療福祉職から「介護に対する見方の変化」を示すコメントが寄せられました（最終アウトカム直結の一次情報）。

### ▶ 町内会長

「この施設になら親を預けたいと思った」

受講生が地域に開いたイベントに町内会長が参加した後のコメントです。

厚労省事業アウトカム：④社会的評価（イメージアップ）

### ▶ 受講生の施設を利用するご家族

「いつも来られないご家族がイベントに来場し、その後も施設に来てくださるようになった」

受講生が企画したイベントをきっかけに、家族との接点が継続的に広がりました。

厚労省事業アウトカム：③介護現場への理解

### ▶ ケア職（受講生が場を開いた先）

「外来にくる患者さんへの眼差しが変わった」

受講生が地域に開いた場を通じて、医療・福祉職の視点も変化しました。

厚労省事業アウトカム：⑤介護職の意識変容

### ▶ 場づくりに参加した地域住民

「次回は桜の咲く頃に一緒に何か企画しよう」

単発のイベントではなく、継続的な関係性・共同企画へと発展しました。

厚労省事業アウトカム：②興味・関心の喚起

「介護職が発信する → 地域住民の介護イメージが変わる」という本事業の最終アウトカム直結の経路が、個人レベルの定性証言で確認されました。

出所：場づくり講座 DAY別アンケート／振り返りアンケート／チューター報告（2026年1～2月）

## 受講生の挑戦が外部で評価された事例

受講生は、講座内での学びや実践にとどまらず、その成果が外部からも評価される機会を得ました。本講座での学びを契機として、外部への挑戦に踏み出す動きが見られました。講座で得た知識や視点を「他の場でも活かしてみたい」という意欲の高まりや、これまで自身が取り組んできた活動の価値を捉え直すきっかけとなっています。

内発的な動機づけを高め、新たな挑戦を生み出すとともに、その成果が社会的に評価されることで、介護・福祉職の価値を社会に問い直す契機となっています。

### ▼OPEN CARE PROJECT AWARD 2025でライティング講座受講生がWノミネート



**枝豆を隠す祖母**  
● 山田 道朗

学生の頃突然始まった祖母との共同生活。長野から東京にきて僕と2人で暮らすことになった。マンションの一室。部屋は別々だけヘルパーさんやお弁当屋さんが来て、毎日せわしなく過ごして…

続きはこちら >



**目の前の人に必死になれる、それが介護の現場。**  
● 徳橋 修翔

「ともかく伴走して伴走しました。結果、彼女は病室で誰にも看取られることなく亡くなりました。駆けつけた私は死んだ遺体の前でなぜか涙が出ました。いまだにその答えはわかっていません。」…

続きはこちら >

経済産業省 OPEN CARE PROJECT AWARD 2025サイトリンク

[https://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/healthcare/kaigo/opencareproject/award\\_2025/](https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/kaigo/opencareproject/award_2025/)

### ▼第13回かながわ福祉サービス大賞で 場づくり講座の受講生が優秀賞を受賞

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会  
第13回かながわ福祉サービス大賞サイトリンク

<https://www.kanafuku.jp/award/>



# 広報について

# 受講生募集説明会

本事業の受講生を募集する説明会をオンラインで7回開催しました。申込数285名(重複含む)

開催日	開催タイトル	参加申込
2025年8月15日	SNSで介護のしごとの面白さの伝え方	44名
8月21日	なぜ今、介護職が“伝える力”を育む場が必要なのか？ KAIGO LEADERS×KAiGO PRiDE合同説明会	47名
8月21日	【法人担当者向け】「伝える力が、介護の未来をつくる！」KAIGO LEADERS SCHOOL開校説明会	20名
8月27日	小さな事業所でインスタフォロワー数11万越えの運用術	69名
8月26日	【法人担当者向け】「伝える力が、介護の未来をつくる！」KAIGO LEADERS SCHOOL開校説明会	15名
8月29日	地域とはぐくむ届ける力	74名
9月11日	KAIGO LEADERS SCHOOL 場づくり講座プチ体験会	16名

Chapter 1. **8.15日** 20:00~21:00 SNSで介護のしごとの面白さの伝え方

Chapter 2. **8.21日** 20:00~21:00 なぜ今、介護職が“伝える力”を育む場が必要なのか？

Chapter 3. **8.27日** 20:00~21:00 小さな事業所でインスタフォロワー数11万越えの運用術

Chapter 4. **8.29日** 20:00~21:00 地域とはぐくむ届ける力

講師: はたつん (介護インフルエンサー), 稲塚 夏輝 (小規模老人福祉施設 専任スタッフ), 稲塚 耕太 (株式会社M&A 株式会社M&A代表取締役), 加藤 守相 (株式会社M&A 代表取締役), 佐伯 美智子 (合同会社M&A 代表)

介護のしごとの魅力を伝える先駆者が学ぼう!

説明会バナー

法人向け KAIGO LEADERS SCHOOL 開校説明会

秋本 市寛 (株式会社M&A 代表取締役)

伝える力が、介護の未来をつくる!

SNS・ライティング・場づくり 講座募集

**8.21日 | 8.26日** 14:00~14:45 ONLINE

KAIGO LEADERS SCHOOL 場づくり講座 プチ体験会

Chapter 5. **9.11日** 19:00~20:00

介護と“場づくり”って、どうつながるの？

【講師】 藤本 遼 (株式会社ここにある代表取締役、場を創む人)

開校前に、講座の雰囲気を感じただけ体感!

## 業界団体との広報連携

広報連携により、受講生の募集やKAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025の参加者募集においてご協力いただき、広く告知することができました。

団体名	連携内容
全国老人福祉施設協議会	メールマガジンの掲載、公式Webサイトへの掲載
全国老人保健施設協会	メールマガジンの掲載、公式Webサイトへの掲載
日本介護福祉士会	メールマガジンの掲載、会員専用サイトへの掲載
高齢者住まい事業者団体連合会	メールマガジンの掲載、公式Webサイトへの掲載
全国社会福祉法人経営者協議会	メールマガジンの掲載、公式Webサイトへの掲載、会報誌へのチラシ同梱
公益財団法人全国有料老人ホーム協会	公式Webサイトへの掲載



## 事業間連携について

事業間連携等事業の実施主体が開催する「事業間連携会議」に参加しました。本事業の周知協力依頼や状況の共有を行いました。

### 集客・広報連携

- KAiGO PRiDE：8/20開催のスクール説明会でのゲスト参加。
- マガジンハウス：「こここ」での受講生募集の記事作成と掲載

### 企画連携

- マガジンハウス：「こここ」編集部によるライティング講座の講師
- マガジンハウス/朝日新聞：KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025のライティング、場づくり講座の審査委員

### 受講生の成果物の発信協力依頼

- 楽天：KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025「WEB投票ページ」に誘導する広告掲載
- 朝日新聞：場づくり講座受賞者への取材
- マガジンハウス：「こここ」でのKAIGO LEADERS SCHOOL AWARDの取材とライティング講座受賞者の記事作成

### 介護事業者の紹介

- マガジンハウス：ケアするしごとツアーでの訪問先提案

## 受講生の成果物の広報

実践コースのSNS講座、ライティング講座の受講生の作品は「[WEB投票ページ](#)」にて公開し、一般の方々にも投票に参加していただきました。投票の結果は2月22日（日）に開催したKAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025にて発表しました。



公開した「WEB投票ページ」

投票期間	2026年 2月5日(木)～2月17日(火)
投票サイトURL	<a href="https://heisei-kaigo-leaders.com/award2025/">https://heisei-kaigo-leaders.com/award2025/</a>
総投票数	2,264 票
PV数	<b>619,065 PV</b> (令和8年3月末時点)
UU数	<b>408,744 人</b> (令和8年3月末時点)
投票部門	SNS講座受講生作品（ショート動画） ライティング講座受講生作成品（note記事）
投票方法	各作品の下にある「投票する」ボタンから投票 投票は1作品につき1票投票

## 楽天との連携による広告展開

受講生の作品を掲載した「WEB投票ページ」に対して広告掲載のサポートを展開していただきました。（掲載期間2026年2月6日（金）～2月17日（火））楽天の定型サイトの画像・動画枠に掲載される広告に掲載され、検索広告（リスティング）より広い認知、再アプローチに優れており、性別、年齢、地域、興味関心など多彩なターゲティング可能となりました。それにより、介護福祉関係者だけではなく、一般の方にも広く展開することができました。

※ 楽天は「情報発信事業（WEBを活用した広報事業）」の採択事業者である。



掲載した広告バナー例

表示回数 (インプレッション)	クリック数	クリック率
25,542,239	917,682 (CTR 3.59%) 一般的な広告のCTRの1.5 ~2倍	3.59%

# メディア掲載

本事業に関して、下記のメディアに掲載されました。

掲載日	媒体名	記事タイトル	種別
2025/8/18	ケアニュースbyシルバー産業ニュース	【8/31締切・受講無料】「介護の魅力発信」の実践学ぶ「KAIGO LEADERS SCHOOL」10月開校	WEB
2025/8/25	こここ	SNS／ライティング／場づくりをみんなで学べる！介護・福祉に特化したオンラインスクール「KAIGO LEADERS SCHOOL」2025年10月開校	WEB
2025/11/27	あいらいふ	【特別インタビュー】KAIGO LEADERS発起人 秋本可愛さんに聞く 2025年、介護のリーダーは日本のリーダーになれたのか？	WEB/ 雑誌
2026/2/26	週刊高齢者住宅新聞Online	KAIGO LEADERS、介護職の成果を表彰するアワード開催 現場の課題解決や魅力発信を評価	WEB
2026/3/10	介護ニュースJoint	介護の魅力発信、「キラキラ」よりも等身大の「モヤモヤ」を。そのリアルが一番刺さるはずだから。	WEB



ケアニュースbyシルバー産業ニュース



介護ニュースJoint

# プレスリリース配信

## PR TIMESにて下記の通り3回プレスリリースを配信しました。

**介護・福祉に特化したコミュニティ型オンラインスクール「KAIGO LEADERS SCHOOL」2025年10月開校決定！**

株式会社Blanketが運営するKAIGO LEADERS（株式会社空白／社名：株式会社）は、介護職員に特化したプログラム「KAIGO LEADERS SCHOOL」を2025年10月に開校いたします。このスクールでは最新の働き方に関する最新のメディアと最新教材を駆使するから学びやすい、現場の中で実践できるスキルも学びます。全国の介護職員が業界内最新のトピックと学びたい、「小さな成功体験」も積み重ねながら現場で活かすためのスキルを習得します。

**10.5月開校！**  
介護・福祉に特化した  
コミュニティ型  
オンラインスクール  
SNS・ライティング・場づくり  
3つの講座 スタート！

特別ゲスト講師  
田中 亮太

株式会社Blanketが運営するKAIGO LEADERS（株式会社空白／社名：株式会社）は、介護職員に特化したプログラム「KAIGO LEADERS SCHOOL」を2025年10月に開校いたします。このスクールでは最新の働き方に関する最新のメディアと最新教材を駆使するから学びやすい、現場の中で実践できるスキルも学びます。全国の介護職員が業界内最新のトピックと学びたい、「小さな成功体験」も積み重ねながら現場で活かすためのスキルを習得します。

**概要**

毎年公表される厚生労働省の資料によると、2049年には約77万人の介護職員が必要になると見られています。今後不足が深刻化する可能性があります。一方、介護職員の労働環境改善率は22.4%（令和6年度「介護労働実態調査」より）と、改善期待値で最も低水準に改善しました。また、同調査では「現場活動の実践状況、効果があったもの」の中で「事業所ホームページを事業所のホームページを運営し（有効）」が27.2%、SNSを活用して事業所のホームページを運営し（有効）が14.6%と高くなっています。（令和6年度「介護労働実態調査」）この調査は、介護職の働き方を改善する動機がまだ大きいことを示しており、SNSや内閣府メディアを活用して魅力を発信できる介護職員が増えれば、より多くの人に介護の仕事の価値を届けられると考えます。

**KAIGO LEADERSとは**

KAIGO LEADERSは、「1人ひとりの、カイロプラティック」をミッションに掲げ、人間の身体機能にアプローチするコミュニティ型です。2021年に設立した以来、介護職員の働き方改善や学びの場としてスタート、オンラインコミュニティ「SPRING」でも多様なメンバーが交流しています。年間100名以上のイベントや研修の学びの場「SPRING」を通じて交流が広がります。介護職員の就業や学習への支援プロジェクトなど、学びを行動につなげる活動を生きています。

所属先：KAIGO LEADERS  
設立：2021年4月22日  
代表者：松本 博樹  
HP：<https://kaiigo-leaders.com/>

「KAIGO LEADERS SCHOOL」とは

2025年8月8日配信

**2月22日開催決定！KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025～ケアの魅力、ここから広がる～**

渋谷キースクラブホールで開催。ゲストに矢野実部長、竹野直氏

株式会社Blanket 2026年1月8日 13時00分

**KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025**  
～ケアの魅力、ここから広がる～  
2026.2.22 (日) 13:00～18:00  
@ 渋谷キースクラブホール

株式会社Blanketが運営するKAIGO LEADERS（株式会社空白／社名：株式会社）は、介護職員に特化したプログラム「KAIGO LEADERS SCHOOL」を2025年10月に開校しました。4月開校の学びを始めるべく「KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025～ケアの魅力、ここから広がる～」を2026年2月22日（日）SHIBUYA KEYS クラブホールにて開催いたします。

当日はSNS、ライティング、場づくりの3つの講座が活用される発表の場に加え、実務講師、竹野直氏もゲストに駆けつけイベントを行います。

**開催概要**

KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025～ケアの魅力、ここから広がる～

- ・日時：2026年2月22日（日）13:00～（開演：12:30）
- ・会場：SHIBUYA KEYS クラブホール（渋谷区三軒丸の内）
- <https://gshibuya-keys.com/>
- （渋谷スクランブルスクエア15階）
- ・参加費：無料（事前申込制）
- ・申込：<https://kaiigo-leaders.com/event/schoolaward25/>
- ・主催：KAIGO LEADERS（運営：株式会社Blanket）

この事業は厚生労働省「令和7年度介護のしごと魅力発信啓発事業（情報発信事業）」介護職員就業率に貢献する取り組みです。

**概要**

2024年の公表された厚生労働省の「介護労働実態調査」に基づき介護職員の必要数についてと見ると、2022年時点での介護職員は約125万人、2049年には約77万人の介護職員が必要になると推定されています。2022年時点での介護職員は約125万人、2049年には約77万人の介護職員が必要になると推定されています。2022年時点での介護職員は約125万人、2049年には約77万人の介護職員が必要になると推定されています。2022年時点での介護職員は約125万人、2049年には約77万人の介護職員が必要になると推定されています。

同調査では「現場活動の実践状況、効果があったもの」の中で「事業所ホームページを事業所のホームページを運営し（有効）」が27.2%、SNSを活用して事業所のホームページを運営し（有効）が14.6%と高くなっています。（令和6年度「介護労働実態調査」）この調査は、介護職の働き方を改善する動機がまだ大きいことを示しており、SNSや内閣府メディアを活用して魅力を発信できる介護職員が増えれば、より多くの人に介護の仕事の価値を届けられると考えます。

2026年1月8日配信

**【速報】「KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025」受賞者が決定！**

全国の介護職員が参加した「現場の新しい学び」を表彰

株式会社Blanket 2026年2月22日 18時55分

**受賞結果一覧**

- ・「社会の広告塔」賞

SNS講座の受講生による記念1作録の中から、最適な動画を結果、以下の作品を選出いたしました。

賞の贈りことから始まる介護の仕事

見6 YouTube

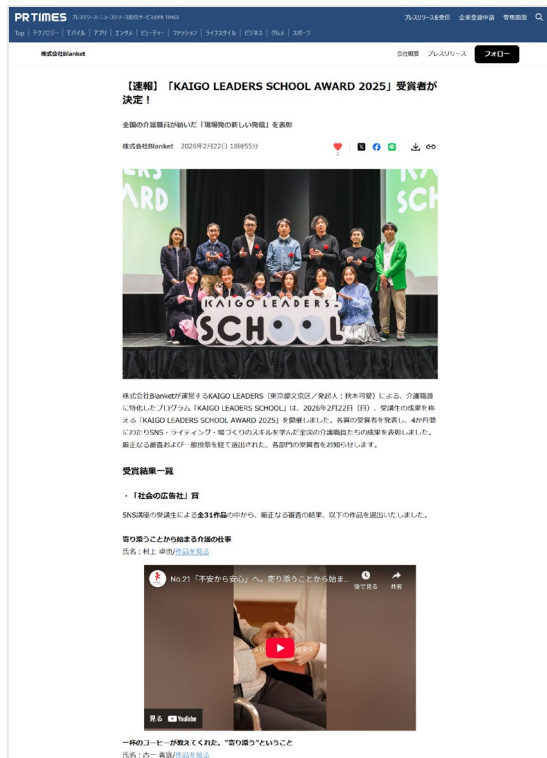
一輝のこーびーが観えてくれた、「寄り添うこと」から始まる

氏名：古一 真海/古一真海

2026年2月22日配信

# プレスリリース転載媒体の一覧

「【速報】「KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025」受賞者が決定！」  
(2026年2月22日配信分) は26の媒体に転載されました。



2026年2月22日配信

1. BtoBプラットフォーム 業界チャンネル
2. 現代ビジネス
3. 時事メディカル
4. Infoseek ニュース
5. @DIME (アットダイム)
6. ニコニコニュース
7. 東洋経済オンライン
8. Mapionニュース
9. PRESIDENT Online
10. STRAIGHT PRESS
11. JBpress (ジェイビープレス)
12. 時事ドットコム
13. 毎日新聞デジタル
14. 財経新聞
15. iza (イザ!)
16. おたくま経済新聞
17. 産経ニュース
18. 東洋経済education×ICT
19. ジョルダンニュース!
20. SEOTOOLS
21. 朝日新聞デジタルマガジン&[and]
22. TBS NEWS DIG
23. NIKKEI COMPASS
24. NewsPicks
25. とれまがニュース
26. ニフティニュース (@niftyニュース)

# KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025

～ケアの魅力、ここから広がる～ 成果発表と表彰

## KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025

本事業の締めくくりと受講生の成果発表の場として、  
KAIGO LEADERS AWARD 2025 ～ケアの魅力、ここから広がる～を開催しました。  
お笑い芸人・漫画家の矢部太郎さん、福祉社会学者の竹端寛先生のトークショーと  
受講生の作品の中で「介護の仕事の魅力が伝わる」と評価された作品の表彰式を実施しました。

### 開催概要

日時：2026年2月22日（日）13:00～18:00 会場：SHIBUYA QWS スクランブルホール

### 参加者数など

対面参加：61名 オンライン参加：116名

YouTubeのアーカイブ動画視聴数：視聴回数274回（3月31日時点）



## AWARDの概要と受賞作品一覧

KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025 を実施。2025年10月から約4か月間学び、受講生が作り上げた成果物の中から「介護の仕事の魅力が伝わる」作品を各講座から3作品ずつ選出し表彰しました。

### 「社会の広告社」賞

選出：株式会社社会の広告社  
副賞は代表の山田英治さんの  
企画アドバイス券

ショート動画タイトル	氏名
寄り添うことから始まる介護の仕事	村上 卓也
一杯のコーヒーが教えてくれた、 ”寄り添う”ということ	古一 義宣
ケアの魅力ってコレか！ その人の”ちょうどいい”とは？	大淵 凜々子

### マガジンハウス「こここ」賞

選出：株式会社マガジンハウス  
副賞は「こここ」への作品の掲載

記事タイトル	氏名
弱さを奪わない仕事—ケアマネジャーとして、 揺れながらかかわるということ—	和田 至正
正解のない現場で、その人だけの「生き方」を 支える——本人・家族の絶望と現場の葛藤を超えて、私たちが届ける『究極のサービス』	吉田 美樹
「自分が一生懸命になれる仕事は、介護だった」 迷いながら働く私たちへ：ケアの現場で20年、宮澤潤さんが教えてくれたこと	中田 麻友

### 朝日新聞「これからのKAIGO」賞

選出：株式会社朝日新聞社  
副賞は「これからのKAIGO」への  
企画書の掲載

場づくり企画名	氏名
ラブ・ハザマーProject	織原 大
engawa	水野 健太郎
人を紡ぐ人と「紡ぎ」時々ときほぐしながら、 よりあわせる	林田 堯之

「これからのKAIGO」：[https://www.asahi.com/ads/korekarano\\_kaigo/](https://www.asahi.com/ads/korekarano_kaigo/)

## AWARDの概要と受賞作品一覧

2026年2月5日（木）～2月17日（火）にはKAIGO LEADERSサイト上に「WEB投票ページ」を開設。SNS講座・ライティング講座の受講生の作品を対象に一般投票を実施しました。投票ページには408,055名のユーザーが訪れ、618,649回表示され、総投票数は2,264票となりました。

### 「みんなが選ぶショート動画部門」賞

タイトル	氏名
寄り添うことから始まる介護の仕事	村上 卓也

### 「みんなが選ぶ記事部門」賞

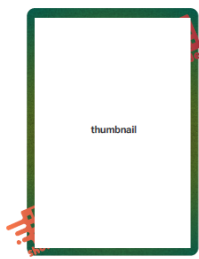
タイトル	氏名
私たちはバラバラの経歴のまま誰かの人生に触れていい。	富永 千春

作品がランダムに上部に表示される仕様にすることで投票に公平性を持たせ、また作品が多くの人目に触れる機会となりました。

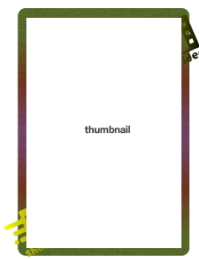


### ショート動画部門 SHORT VIDEO

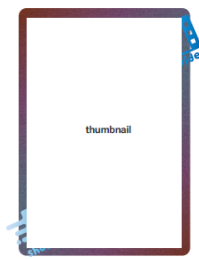
介護・福祉の仕事に関心を持ってもらうことを目的に、仕事の魅力を短い動画で伝えた作品です。ぜひ気に入った作品をご覧ください。



タイトルタイトルタイトルタイトルタイトル  
タイトルタイトルタイトル



タイトルタイトルタイトルタイトルタイトル  
タイトルタイトルタイトル



タイトルタイトルタイトルタイトルタイトル  
タイトルタイトルタイトル

## 企画委員会

本事業がより多くの人に介護のしごとの魅力を届けられる事業となる様、企画委員会を実施しました。事業設計や発信戦略・アウトカム設計・成果報告などについて検討し、多様な立場からご意見をいただきました。

### ■ 企画委員



はたつん

介護士インフルエンサー



高野 龍昭

東洋大学  
福祉社会デザイン学部 教授



水口 怜斉

経済産業省  
ヘルスケア産業課 課長補佐



小林大地

株式会社GO  
クリエイティブディレクター

### ■ 委員選定理由

業界団体や事業者からの発信に限らず、SNSで介護職に本事業の情報を届けるための助言や、本プログラムに関して日常的に積極的にSNSを活用する中でのアドバイスをいただきます。

日頃学生と関わっている中で、学生の価値観や学生に届けるためには？という観点や、高野先生ご自身が、介護のことをわかりやすく世間に届ける実践をさまざまなメディアで発信されていらっしゃるお立場からご助言いただきます。

介護人材不足(介護サービスが受けられない状況)は家族介護者の負担が増すことから介護分野だけが取り組むべきテーマではないと考えており、経済産業省が手掛ける「OPEN CARE PROJECT」との連携など、自治体連携等の可能性に関する視点で助言をいただきます。

ユニクロのチアーマンズを起用したCMや#VOICEPAY、ベイブレードやSKE48のプロモーションまで、世間の人の心を動かす企画を手掛ける立場から、本企画を多くの人の心に届く企画にするためのご助言をいただきます。

# 企画委員会

企画委員会は下記の3日程でオンライン（Zoom）で実施しました。

## 第一回

2025年8月7日(木)10:00～11:00

### 受講生の意欲を高める

- ・ 人間関係の広がりアピール
- ・ 小さな成功体験の設計
- ・ チーム制による相互学習と関係性の構築
- ・ 言語化するプロセスの重視

### 介護職でない人に届けるには

- ・ 実際に交流できるイベント設計
- ・ SNS活用とショートのアークाइブの活用
- ・ データ分析による科学的な紹介

## 第二回

2025年9月29日(月)15:00～16:00

### アウトプットの認知拡大のために

- ・ 講師と連携して発信
- ・ 一般投票の仕組みの検討
- ・ 「良い仕事」ではなく自分の「好き」を活かせる仕事という切り口

### 効果測定

- ・ Before/After比較の重要性とタイミング
- ・ 数値だけでなく受講生の「内省・学び」に繋がる設計

## 第三回

2026年3月6日(金)15:00～16:00

### 事業全体の講評

- ・ 誇りや自己肯定感の向上
- ・ 同年代の発信の効果
- ・ 伴走型の学習設計の価値
- ・ 作品の多様性と本質的な価値の言語化

### 今後に向けた提言

- ・ 離脱率の低下へ（難易度別など柔軟な設計）
- ・ 継続の仕組化
- ・ 発信内容や再設計やサポートの強化（卒業生のメンター制等）

## 自己評価 — 本事業の成果と課題

実施要綱に基づき自己評価を行いました。企画委員会における専門的・技術的助言（卒業生メンター制度の導入、離脱率の低減、継続支援の仕組み化、Before/After比較の実施等）も踏まえ、本事業の成果と課題を整理しています。

### ◎ 本事業で得られた成果

①介護職475名に学習機会を提供し、93名が発信者として実際に行動を起こす状態を創出しました。スキル習得にとどまらず、行動変容や自己肯定感の向上まで一貫して支援する仕組みを構築しました。

②介護現場のリアルな魅力を伝える作品、93点（動画31本／記事38本／場づくり実践24件）を制作・公開しました。介護職自らが発信する信頼性の高い情報源を創出し、地域・家族・一般層への情報接点を拡張しました。

③受講生の発信に対する心理的ハードルの低下や行動指標の改善を確認しました。

・ SNS +0.76pt（改善64.7%）／ライティング +0.26pt

④マガジンハウス、朝日新聞、楽天等との連携および外部アワードでの評価を通じて、介護の仕事の魅力が社会に届く機会を創出しました。

### △ 改善すべき課題と今後への提言

①リアルタイム受講数の段階的減少（完走率向上）  
業務多忙な介護職にとって、4ヶ月の連続講座は参加・継続のハードルが高く、受講者数は段階的に減少しました。短期・単発型や難易度別の柔軟な受講設計が必要です。

②成果物の量・質に受講生間でばらつきが見られ、最終稿段階で大幅な修正が必要となるケースもありました。初期段階からより踏み込んだフィードバック体制の強化が必要です。

③一般層（介護無関心層）への態度変容については、リーチは確認できた一方で、エンゲージメントや意識変化の直接的な計測は限定的でした。効果指標の設計と検証手法の高度化が今後の課題です。

④事業終了後の発信継続を支える仕組みが十分ではなく、卒業生メンター制度やコミュニティの自走化、成果物の二次活用設計の強化が必要です。

⑤本事業は個人発信を起点とするため、介護人材確保への直接的な効果の把握が難しく、影響範囲の可視化に限界があります。中長期的な追跡設計の検討が必要です。

## 総括

### ▼総評

本事業では、介護職自身が「発信者」として育つ仕組みを構築し、スキル習得にとどまらず、行動変容や自己肯定感の向上までを一体的に支援できた点が大きな成果です。特に「介護職発信」という事業枠においては、実践コース・アーカイブコースを通じて約500名に学びの機会を提供し、現場発の主体的なアクションが生まれたことは高く評価できます。さらに、93点の一次情報となるコンテンツ創出や外部媒体との連携、受講生の受賞などを通じて、個の成長が社会的評価へと接続された点も意義深いものです。本事業は、介護職自身による発信を通じて社会への理解促進を図る新たなモデルとして、一定の成果を確認しました。

### ▼今後に向けて

一方で、4ヶ月にわたる連続プログラムは、学びと課題の両面で受講生に一定の負荷があり、完走率や成果物の質にばらつきが生じる要因ともなりました。「介護職発信」が求められる本事業においては参加者が限定的であるとも捉えられることも考えられ、より多様な層が参加しやすいよう、短期・単発型の機会など、気軽に関わられる導線の設計が求められます。また、一般層へのリーチの可視化や、事業終了後も発信を継続できる仕組みづくり、成果の二次活用の設計も今後の重要な課題です。受講設計およびフィードバック体制の強化とあわせて、持続的に介護の魅力発信が広がる基盤構築が必要だと考えます。